

研究業績一覽 (50音順)

■浅原達郎

訳書

- 1982 『訓読説文解字注』金冊(共訳) 東海大学出版会
1985 『中国古代理量衡図集』(共訳) みすず書房
1993 『訓読説文解字注』匏冊(共訳) 東海大学出版会

主要論文

- 1993 楚文字の「陵」について『中国出土文字資料の基礎的研究』pp.8-12
1998 牛不相当穀廿石『泉屋博古館紀要』15 pp.47-59
2000 西周後期の編鐘の設計—戎肆庵説裘記之三—『東方学報』京都 72 pp.630-656
2001 望山一号墓竹簡の復原 小南一郎編『中国の礼制と礼学』朋友書店 pp.139-182

■井狩彌介

著書

- 1980 『インド亜大陸・ヒマラヤ(世界の民族第12巻)』(共編・監修) 平凡社
1981 A Study of Agnicayana — Ukhāsambharaṇa, Ph.D. Dissertation, The University of Chicago.
1982 『スリランカの祭』(共著) 工作舎
1984 Religions and Cultures of Sri Lanka & South India, (共編) National Museum of Ethnology.
1993 『インド=複合文化の構造』(共編著) 法蔵館
1993 From Vedic Altar to Village Shrines, Towards an Interface between Indology and Anthropology (共編著) 国立民族学博物館 (Senri Ethnological Studies No.36) 1993.
1994 A Study of the Nilamata, Aspects of Hinduism in Ancient Kashmir (編著) 京都大学人文科学研究所

主要論文

- 1969 「Ādeśaについて」『印度学仏教学研究』17-2 pp. 684-689.
1975 「アグニチャヤナ祭式と古ウバニシャッド」『宗教研究』225 pp.51(151)-73(173)
1980 「アーバスタンバ・シュルヴァーストラ(訳、注、解説)」『科学の名著 1 インド天文学・数学集』朝日出版社 pp.373 - 478.
1983 “Baudhāyana Śrautasūtra X, An annotated English Translation”(co-author), Agni — The Vedic Ritual of the Fire Altar Vol. II, California, pp. 477-675.
1988 「輪廻と業」『岩波講座・東洋思想 インド2』岩波書店 pp. 275-306.
1989 「ヴェーダ祭祀の世界観」『岩波講座・東洋思想 インド3』岩波書店 pp. 49-64.
1995 “Vādhūla Śrautasūtra I.1-4 (Agnyādheya, Punarādheya), A New Critical Edition of the Vādhūla Śrautasūtra, I”, *Zinbun* 30, Kyoto University, pp.1-129.
1996 “Towards a ‘Critical Edition’ of the Vādhūla Śrautasūtra”, *Studien zur Indo-Iranistik* 20 (Paul Thieme Felicitation Volume), Reinbek, pp.145-168.

- 1997 “Vādhūla Śrautasūtra 1.5-1.6 (Agnihotra, Agnyupasthāna), A New Critical Edition of the Vādhūla Śrautasūtra, II”, *Zinbun* 31, Kyoto University, pp.1-64.
1999 “A Survey of the New Manuscripts of the Vādhūla School—” *MSS. of K1 and K4 -*”, *Zinbun* 33, Kyoto University, pp. 1-30.

■池田 巧

著書

- 1993 『電腦外国語大学』(共著) 技術評論社
1999 『コンピュータで中国語 Win & Mac』(共著) 大修館書店
1999 『世界のことば100語辞典』アジア編(共著・広東語の項) 三省堂
2001 『解説! 香港』(共著) 雷鳥社

主要論文

- 1989 「漢藏対音資料 P.T. 1228 所見の中古漢語河西方言韻尾の対音」『中国語学』236 pp.15-23
1992 「江蘇省泰州方言の音声についての記述的研究」『開篇』9 pp.26-41
1994 「漢藏対音資料拾遺 P.3346 (注音本)」H. Kitamura, T. Nishida, Y. Nagano (eds.) *Current Issues in Sino-Tibetan Linguistics, The Organizing Committee The 26th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics, Osaka*, pp.1011-1017.
1995 「香港言語学会の《粵語ピンイン方案》について」『山梨県立女子短期大学紀要』28 pp. 121-140
1998 「廣西客家陸川方言の合口音—關於高本漢所構擬の兩種合口音—」『開篇』17 pp. 7-16 李如龍/周日健主編《客家方言研究》暨南大学出版社 pp.289-304
1998 「木雅語語音結構的幾個問題」『內陸アジア言語の研究』XIII pp. 83-91
1999 「東洋学と音声記号」『人文学と情報処理』24 pp. 8-14
1999 「生きていた西夏語?—ムニャ〈木雅〉語の再発見と存亡—」『ことばと社会』2 pp. 62-80
2000 「西曆1900年に記録されたナムイ語の語彙」『東方学報』京都72 pp. 770-755
2000 「山的路」月刊『言語』29-6 pp.59-64

■石川禎浩

著書

- 2001 『中国共産党成立史』(単著) 岩波書店

訳書

- 1992-1993 金冲及主編『周恩來伝』上、中、下(共訳) 阿吽社

主要論文

- 1991 「南京政府時期の技術官僚の形成と発展—近代中国技術者の系譜」『史林』74-2 pp.1-33
1991 「李大釗のマルクス主義受容」『思想』803 pp.81-102
1992 「マルクス主義の伝播と中国共産党の結成」狭間直樹編

- 『中国国民革命の研究』京都大学人文科学研究所 pp. 351-452
- 1994 「東西文明論と日中の論壇」古屋哲夫編『近代日本のアジア認識』京都大学人文科学研究所 pp.395-440
- 1994 「若き日の施存統—中国共産党創立期の「日本小組」を論じてその建党問題におよぶ」『東洋史研究』53-2 pp.82-113
- 1996 「施存統と中国共産党」『東方学報』京都68 pp.245-358
- 1999 「中国共産党宣言」と「中共三月会議（1921年）」に関する一考察『神戸大学史学年報』14 pp. 19-37
- 1999 「梁啓超と文明の視座」狭間直樹編『共同研究 梁啓超—西洋近代思想受容と明治日本』みすず書房 pp. 106-131
- 2000 「国共合作の崩壊とソ連・コミンテルン—いわゆる「スターリンの五月指示」をめぐる」『五十周年記念論集』神戸大学文学部 pp. 377-400
- 2001 「農村革命へのシフト—中国共産党の農民運動方針とコミンテルン」森時彦編『中国近代の都市と農村』京都大学人文科学研究所 pp. 335-360

■稲葉 稜

著書

- 1992 『慧超往五天竺国伝研究』（共著）京都大学人文科学研究所
- 1995 『世界に広がるイスラーム』（講座イスラーム世界の歴史3）（共著）栄光教育文化研究所
- 2000 『岩波講座世界歴史6 南アジア世界・東南アジア世界の形成と展開—15世紀』（共著）岩波書店
- 2000 『アジアの歴史と文化8 西アジア史』（共著）同朋舎出版

主要論文

- 1986 「スルタン・マスウード時代のMaḥmūdīyānとMas'ūdīyān」『東洋史研究』45-2 pp.130-165.
- 1988 「ガズナ朝のハージブ」『西南アジア研究』29 pp.18-37.
- 1990 「セルジューク朝と後期ガズナ朝—その国境地帯について—」『東方学報』京都62 pp. 637-673.
- 1991 「七—八世紀ザブリスターンの三人の王」『西南アジア研究』35 pp. 39-60.
- 1994 「ガズナ朝の「王都」ガズナについて」『東方学報』京都66 pp. 200-252.
- 1995 「ガズナ朝のナディーム」『東方学』89 pp.104-118.
- 1997 「Tārīkh-i Bayhaqiに見える王権観と国家観」『東方学会創立五十周年記念東方学論集』東方学会 pp. 1403-1414.
- 1999 「ゴール朝と11-12世紀のアフガニスタン」『西南アジア研究』51 pp. 16-42.
- 2001 「安史の乱時に入唐したアラブ兵について」『国際文化研究』5 pp. 16-33.

■井波 陵

訳書

- 1997 王国維『宋元戲曲考』平凡社

主要論文

- 1976 「林黛玉論—日常的解体を越えんとして」『中国文学報』26 pp. 44-78
- 1986 「『金瓶梅』の構想」『東方学報』京都58 pp.275-325
- 1987 「曹寅について」『東方学報』京都59 pp.163-215
- 1990 「躍動する精神—王国維の文学理論について」『中国文学報』42 pp.120-149
- 1991 「躍動する精神（続）—王国維の史学について」『中国文学報』43 pp.86-125
- 1994 「家庭の秩序—『紅樓夢』における人間関係」荒井健編『中華文人の生活』平凡社 pp.271-302
- 1997 「『棟亭五種』の同校者たち」『東方学報』京都69 pp.73-203
- 1999 「啓蒙の行方—梁啓超の評価について—」狭間直樹編『共同研究 梁啓超—西洋近代思想受容と明治日本—』みすず書房 pp.361-386
- 2001 「王国維の国学—記憶よ、語れ。」狭間直樹編『京都大学人文科学研究所70周年記念シンポジウム論集 西洋近代文明と中華世界』京都大学学術出版会 pp.242-

258

- 2001 「王国維の歴史研究—アヴァンギャルドの時代に」宇佐美齊編『アヴァンギャルドの世紀』京都大学学術出版会 pp.369-390

■岩井 茂樹

著書

- 1993 『戦後日本の中国史論争』（共著）河合文化研究所
- 1995 『アジアの歴史と文化5』（共著）同朋舎出版
- 1996 『データによる中国近代史』（共著）有斐閣（同前韓国語版 申一燮訳 図書出版新書苑 1999.9）
- 1999 『使琉球録解題および研究』（共著）榕樹書林

訳書

- 1984 ジェローム・チェン『軍紳政権』（共訳）岩波書店
- 1991 張継和『最後の宦官—小徳張』（訳注/解説）朝日新聞社
- 1992-1993 金沖及主編『周恩来伝』上、中、下（共訳）阿吽社

主要論文

- 1983 「清代国家財政における中央と地方—酌撥制度を中心にして—」『東洋史研究』42-2 pp.126-154
- 1992 「中国専制国家と財政」『中世史講座 第6巻』学生社 pp.273-310
- 1993 「明末の集権と「治法」主義—考成法のゆくえ—」『明清時代の法と社会』汲古書院 pp.167-193
- 1994 「徭役と財政のあいだ—中国税・役制度の歴史的理解にむけて—」（一）～（四）『経済経営論叢』28-4, 29-1, 29-2, 29-3 pp.1-58, 1-50, 1-68, 1-88
- 1995 「張居正的財政課題與方法」『日本中青年学者論中国史宋元明清卷』上海古籍出版社 pp.369-411
- 1996 「十六・十七世紀の中国辺境社会」小野和子編『明末清初の社会と文化』京都大学人文科学研究所 pp.625-659
- 1997 「公課負担団体としての里甲と村」『明清時代史の基本問題』汲古書院 pp.181-202
- 2000 「清代の版図順荘法とその周辺」『東方学報』京都72 pp.381-449
- 2000 「嘉靖四十一年浙江嚴州府遂安縣十八都下一図賦役黄冊残本考」夫馬進編『中国明清地方檔案の研究』京都大学文学部 pp.37-56
- 2001 「武進県の田土推取と城郷関係」森時彦編『中国近代の都市と農村』京都大学人文科学研究所 pp.3-32

■ウィッテルン クリスティアン

著書

- 1998 *Das 'Yulu' des Chan-Buddhismus. Die Entwicklung vom 8.-11. Jahrhundert am Beispiel des 28. Kapitels des Jingde chuandenglu (1004)*, Schweizerische Asiatische Studien, Monographien Bd.31, Peter Lang, Bern et. al.

訳書

- 2001 Tsuneki Nishiwaki, *Chinesische und Manjurische Handschriften und seltene Drucke, Teil 3: Chinesische Texte vermischten Inhalts aus der Berliner Turfansammlung*, Franz Steiner Verlag Stuttgart.

主要論文

- 1993 "Chinese Character Encoding", *The Electronic Bodhidharma*, No. 3, pp. 44-47.
- 1994 "Code und Struktur: Einige vorläufige Überlegungen zum Aufbau chinesischer Volltextdatenbanken", *Chinesisch und Computer*, No.9, pp. 64-70.
- 1998 "The Issue of Rare Characters: Coding, Input and Output", *Annual meeting of the Pacific Neighbourhood Consortium May 15-18, 1998. Proceedings*, pp. 449-472.
- 1998 「數位化中文佛教大藏經」『佛教圖書館訊』15 pp. 24-27.
- 2000 "Buddhist Studies in the Digital Age" 『中華佛學學報』13.2 pp.461-501.
- 2000 "Non-system characters in XML documents" 『全国文献、情報センター人文社会科学学術情報セミナーシリーズ』10

- pp. 35-50.
 2001 “Editing XML” 『佛教圖書館館訊』24 pp. 54-59.
 2001 「漢文電子佛典製作興運用之研究——以『瑜伽師地論』為例」(共著) 『中華佛學學報』14 pp.43-53.
 2001 “Some thoughts on the digitization of Kanji” 『全国文献、情報センター 人文社会科学 学術情報セミナーシリーズ』11 pp. 9-36.

■宇佐美 齊

著書

- 1975 『詩と時空』 深夜叢書社
 1979 『ランボー私註』 国文社
 1982 『立原道造』(近代日本詩人選・17) 筑摩書房
 1989 『落日論』 筑摩書房
 1991 『フランス・ロマン主義と現代』(編著) 筑摩書房
 1992 『詩人の変奏』 小沢書店
 1994 『太陽の記憶』(共著) 淡交社
 1997 『象徴主義の光と影』(編著) ミネルヴァ書房
 1997 『フランス詩 道しるべ』 臨川書店
 2000 新編中原中也全集第3巻『翻訳・解題篇』(編集・執筆) 角川書店
 2001 『アヴァンギャルドの世紀』(編著) 京都大学学術出版会

訳書

- 1974 フェルナンド・アラバル『鯛の埋葬・バビロンの邪神』(新しい世界の文学・67) 白水社
 1979 アポリネール『坐る女』(アポリネール全集第3巻) 青土社
 1991 ドラエー、イザンバル、マチルド、イザベル『素顔のランボー』(編訳) 筑摩書房
 1992 アルバール・メッサン版『アルチュール・ランボー詩集』(《巨匠たちの自筆原稿叢書》訳詩篇・解題付) 臨川書店
 1994 『エリュアール詩集』(編訳) 小沢書店
 1996 『ランボー全詩集』(編訳・ちくま文庫) 筑摩書房

主要論文

- 1993 “La Conscience du temps chez Rimbaud”, Arthur Rimbaud, un siècle d'errances (Presses Universitaires de Lille), pp. 11-20.
 1993 「韻文詩翻訳の二つの可能性—上田敏と柳澤健によるLE BATEAU IVRE 翻訳の試み—」 『人文学報』72 京都大学人文科学研究所 pp. 1-38.
 1993 「「私」の肥大と解体—啄木詩の変貌をめぐって—」 中西進編『日本文学における「私」』河出書房新社 pp. 202-225
 1994 「詩歌の起源と転変—人文学における詩学の位置とその課題—」 山田慶兒・阪上孝編『人文学のアナトミー』岩波書店 pp. 135-157.
 1997 “Les Métamorphoses du diseur du moi-Maurice de Guérin et la recherche d'une nouvelle langue-”. L'Amitié Guérinienne, No. 171, pp. 8-26.
 1998 「詩における曖昧と想像力」 中西進編『日本の想像力』JDC pp. 285-307
 1998 “Baudelaire-Foyer de la poésie symboliste-”, Equinoxe No.15 Rinsen Books, pp. 7-18.
 1999 “O chansons, ô saisons: deux traductions japonaises de Bonheur d'Arthur Rimbaud”, Daruma (Revue d'études japonaises), No.5, pp. 105-130.
 2000 L'Etude de la littérature française, de Rousseau à Baudelaire, à l'Institut de Recherches en Sciences Humaines de l'Université de Kyoto, Zinbun 34 (1), Kyoto University, pp. 165-178.
 2001 中原中也とフランス近代詩 井波律子・井上章一編『文学における近代—転換期の諸相—』国際日本文化研究センター pp. 75-88.

■宇佐美文理

主要論文

- 1990 「蘇東坡の絵画論と『東坡易伝』」 『日本中国学会報』42 pp. 184-196.
 1992 「個物論序説—張載を手がかりにして—」 『信州大学教養

- 部紀要』26 pp. 1-17.
 1993 『『古画品録』訳注』 『信州大学教養部紀要』27 pp.1-28
 1993 「藝術と目録」 『汲古』23 pp. 88-93.
 1994 「思想と画像—漢代の死生観と画像石」 『信州大学教養部紀要』28 pp. 1-36.
 1996 「山水画と風景詩」 『中国思想史研究』19 pp. 135-154.
 1997 「六朝藝術論における気の問題」 『東方学報』京都69 pp. 205-245.
 1998 「宋代絵画理論における「形象」の問題」 『日本中国学会報』50 pp. 124-137.
 1999 『『太平御覧』「画」訳注』 『人文科学論集』人間情報学科編 信州大学人文学部 33 pp. 37-60.
 2001 「「線」と「かたち」—敦煌北朝期の壁画を手がかりとして—」 『人文科学論集』人間情報学科編 信州大学人文学部 35 pp. 85-110.

■大浦康介

著書

- 1996 『文学をいかに語るか—方法論とトポス』(編著) 新曜社
 2000 『哲学を読む—考える愉しみのために』(共編著) 人文書院

訳書

- 1989 Kenji Nakagami, *La Mer aux arbres morts* (仏訳、共訳) Paris, Ed. Fayard.
 2001 ビエール・バイヤール『アクロイドを殺したのはだれか』筑摩書房

主要論文

- 1995 「文学についての学問は可能か—漱石にみる文学と科学」 山田慶兒・阪上孝編『人文学のアナトミー』岩波書店 pp. 31-53.
 1997 「第三夜—開かれたテキスト」 『漱石研究』8 翰林書房 pp. 50-59.
 1997 「サドが『神』を口にするとき」 阪上孝編『統治技法の近代』同文館 pp. 189-228.
 1997 「〈内的独白〉の誕生—E・デュジャルダンの『月桂樹は刈られた』をめぐって」 宇佐美齊編『象徴主義の光と影』ミネルヴァ書房 pp. 292-309.
 1998 「ひとはなぜ自分自身のテキストが読めないのか—テキストの一般性にかんする受容理論的考察」 『人文学報』81 京都大学人文科学研究所 pp. 79-93.
 1998 “Le monologue symbolique ? — à propos des *Lauriers sont coupés*”, Equinoxe 15, Rinsen Books, pp. 44-53.
 2000 「漱石作品のナラトロジー—写生文の概念をめぐって」 『人文学報』83, 京都大学人文科学研究所 pp. 75-96.
 2000 “Figurines chez Sade”, Equinoxe 17/18, Rinsen Books, pp. 33-40.
 2001 「イェナ派と近代—初期ロマン派にみる〈組織化〉の黎明」 『人文学報』84 京都大学人文科学研究所 pp. 1-22.
 2001 「宣言の時代とアヴァンギャルド」 宇佐美齊編『アヴァンギャルドの世紀』京都大学学術出版会 pp. 4-34.

■大原嘉豊

主要論文

- 2001 「九品来迎図研究における顕密体制論の実効性」 『哲学研究』572 pp. 60-107

■岡村秀典

著書

- 1988 『世界の大遺跡9 古代中国の遺産』(共著) 講談社
 1989 『椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡』(共編著) 京都大学文学部博物館
 1993 『番塚古墳』(共編著) 九州大学文学部考古学研究室
 1995 『東北アジアの考古学研究』(共著) 同朋舎出版

- 1997 『青銅期の図象記号による殷後期社会の研究』 科研成果報告書
 1998 『三星堆 中国5000年の謎・驚異の仮面王国』 (共著) 朝日新聞社
 1999 『三角縁神獣鏡の時代』 吉川弘文館
 1999 『故宮博物院13 玉器』 (共著) 日本放送出版協会
 1999 『中国古代王朝形成期における畜産と動物犠牲の研究』 科研成果報告書
 2000 『中国古代都市の形成』 (編著) 科研成果報告書
 2000 『世界美術大全集 東洋編第1巻 先史・殷・周』 (共編著) 小学館

訳書

- 1988 中国社会科学院考古研究所編著『新中国の考古学』 (共訳) 平凡社
 1988 梁上椿『巖窟藏鏡』 (共訳) 同朋舎

主要論文

- 1997 「長江中流域における城郭集落の形成」『日本中国考古学会会報』 7 pp. 24-39.
 1998 「農耕社会と文明の形成」鶴間和幸編『岩波講座 世界歴史』 3 岩波書店 pp. 77-102.
 1998 「公元前二千年前後中国玉器之擴張」鄧聡編『東亜玉器』 1、香港中文大學、pp. 79-85.
 1999 「漢帝国の世界戦略と武器輸出」福井勝義・春成秀爾編『人類にとって戦いと1 戦いの進化と国家の生成』、東洋書林、pp. 186-206.
 1999 「龍山文化後期における玉器のひろがり」『史林』 82-2、pp. 103-129.
 1999 「中国古代王権と祭祀」『考古学研究』 46-2、pp. 73-91.
 2000 「殷代における畜産の変革」『東方学報』 京都72、pp. 1-48.
 2001 「遼東新石器時代の玉器」銭憲和編『海峡兩岸古玉学会議論論文專輯 (I)』 (『国立台湾大学理学院地質科学系研究報告』 33)、pp. 391-395.
 2001 「倭王権の支配構造」『考古学の学際的研究』 濱田青陵賞受賞者記念論文集 1、昭和堂、pp. 335-358.
 2001 「殷周時代の動物供犠」小南一郎編『中国の礼制と礼学』 朋友書店、pp. 11-64.

■落合弘樹

著書

- 1997 『調布市史』 下巻 (共著) 調布市
 1999 『秩禄処分-明治維新と武士のリストラ-』 中央公論新社
 2001 『明治国家と士族』 吉川弘文館

主要論文

- 1989 「内務省期の士族授産政策」『日本歴史』 第492号 pp. 56-73.
 1993 「留守政府期の秩禄処分と井上馨」伊藤隆編『日本近代史の再構築』 山川出版社 pp. 1-24.
 1994 「帝国議会における秩禄処分問題-家禄賞典禄処分法制定をめぐって-」『人文学報』 73 京都大学人文科学研究所 pp. 177-199.
 1994 「明治前期の陸軍下士と自由民権」『人文学報』 74 京都大学人文科学研究所 pp. 37-65.
 1998 「大久保政権と士族」藤野保編『近世国家の成立・展開と近代』 雄山閣 pp. 360-380.
 2000 「西南戦争期の京都府警察」『人文学報』 83 京都大学人文科学研究所 pp. 39-55.
 2000 「密偵荘村省三と不平士族」佐々木克編『それぞれの明治維新-変革期の生き方-』 吉川弘文館 pp. 233-255.
 2001 「明治初期の外征論と東アジア」山室信一編『近代東アジアの構造連関』 吉川弘文館 pp. 93-119.
 2001 「維新期の彦根藩と彦根藩士」佐々木克編『幕末維新の彦根藩-彦根城博物館叢書 1-』 彦根市教育委員会 pp. 196-208.
 2001 「明治九年一月の国事犯捕縛一件」三上昭美先生古稀記念論文集刊行会編『近代日本の政治と社会』 岩田書院 pp. 217-240.

■籠谷直人

著書

- 1985 『両大戦間期 日本のカルテル』 (共著) 御茶の水書房
 1991 『新編 岡崎市史 近代 4』 (共著) 岡崎市教育委員会
 1997 孫中山生誕130周年記念国際シンポジウム実行委員会編『孫文と華僑』 (共著)
 1998 佐藤彦雄他編『日本農書全集52巻 農産加工3』 (共著) (社) 農山魚村文化協会
 1998 日本福祉大学知多半島総合研究所編『知多半島歴史研究の十年』 (共著) 校倉書房
 1999 杉山伸也、リンダ・グローブ編『近代アジアの流通ネットワーク』 (共著) 創文社
 1999 日本孫文研究会・神戸華僑華人研究会『孫文と華僑』 (共著) 汲古書院
 1999 『岩波講座 世界歴史19 移動と移民-地域を結ぶダイナミズム』 (共著) 岩波書店
 2000 『アジア国際通商秩序と近代日本』 (単著) 名古屋大学出版会
 2000 『姫路市史第五巻上 本編 近現代1』 (共著) 姫路市役所
 2001 『1930年代のアジア国際秩序』 (共編著) 溪水社

主要論文

- 1993 「合資会社三龍社『事業報告書』(第一回(1897年)―第二六回(1922年))の分析」岡崎市教育委員会『岡崎市史研究』 15 pp. 4-39.
 1993 「矢作川流域に残る近代の産業遺産・遺跡・歴史資料」『河川整備基金助成事業 矢作川流域資料調査報告書』 愛知県西尾市 pp. 79-160.
 1994 「来自亞洲的衝擊與日本近代」『国立台湾師範大学歴史学報』 22 pp. 447-88.
 1995 「開港後の対アジア貿易と直輸出態勢の模索-日本昆布会社を事例にして-」『オイコノミカ』 31,2-4合併号 名古屋市立大学経済学会 pp. 231-259.
 1996 “The Role of Chinese Merchants in the Development of the Japanese Cotton Industry”, 1880-1934, *Zinbun (Annals of the Institute for Research in Humanities)* 30, pp. 149-183.
 1996 「日中戦争前の日本経済外交-第二次「日印会商」(1936-37年)を事例にして-」『人文学報』 77 京都大学人文科学研究所 pp. 99-140.
 1997 「1940年代初頭の日本綿布取引をめぐるアジア通商網-日本綿布輸出組合「南方地域向取引調」の検討-」『人文学報』 79 京都大学人文科学研究所 pp. 189-216頁
 1997 “Japanese Cotton-textile Diplomacy in the First Half of the 1930s: The Case of the Dutch-Japanese Trade Negotiations in 1934”, *Bulletin of Asia-Pacific Studies*, Vol.7, Osaka University of Foreign Studies, pp. 35-44.
 1998 「日蘭会商(1934年6月-38年初頭)の歴史的意義-オランダの帝国主義的アジア秩序と日本の協調外交-」『人文学報』 81 京都大学人文科学研究所 pp. 1-46.
 1999 「戦前期日本人商社によるインド棉花の奥地買付活動-東洋棉花ボンベイ支店を事例にして-」『人文学報』 82 京都大学人文科学研究所 pp. 1-19.

■加藤和人

著書

- 2001 『生き物のかたちと数理-近藤滋氏との対話-』 (共編) 平成12年度教育改善推進費研究報告書・別冊

主要論文

- 1988 「 δ -クリスタリン遺伝子の組織特異的発現のメカニズム」『代謝』 vol. 25 (5) pp. 405-414.
 1990 Rapid and transient decrease of N-myc expression in retinoic acid-induced differentiation of OTF9 teratocarcinoma stem cells. *Molecular & Cellular Biology*, vol. 10, pp. 486-491.
 1991 Tissue distribution of N-myc expression in the early organogenesis period of the mouse embryo. *Development Growth & Differentiation*, vol. 33, pp. 29-36.
 1993 Single-cell transplantation determines the time when Xenopus muscle precursor cells acquire a capacity for autonomous differentiation. *Proceedings of the National Academy of Sciences*

- of the USA, vol. 90, pp. 1310-1314.
- 1993 Community effects and related phenomena in development. *Cell*, vol. 75, pp. 831-834.
- 1994 An inhibitory effect of *Xenopus gastrula* ectoderm on muscle cell differentiation and its role for dorsoventral patterning of mesoderm. *Developmental Biology*, vol. 163, pp. 222-229.
- 1997 Modern biology and new perspectives on the relationship between science and society. T.S.Okada ed. "Developmental Biology in Half a Century" (The Taniguchi Foundation Publication) pp. 94-97.
- 2000 「クローン牛が食卓にやってきたー生物学の歴史からみたクローン実験」葛西奈津子編著『21世紀に何を食べるか』恒星出版 pp.116-129.
- 2000 「現代生命科学における名づけ」横山俊夫編『言語力の諸相』(京都大学人文科学研究所共同研究資料叢刊 第4号) pp. 23-36.
- 2001 A new way to communicate science to the public: the creation of the Scientist Library. *Public Understanding of Science*, vol. 10, pp. 231-241.

■菊地 暁

著書

- 2001 『柳田国男と民俗学の近代ー奥能登のアエノコトの二十世紀ー』吉川弘文館

主要論文

- 1993 「〈大路渡〉とその周辺ー生首をめぐる儀礼と信仰ー」『待兼山論叢 日本学篇』27 pp. 1-18.
- 1995 「〈猫〉をめぐる〈厚い記述〉ー解釈学的歴史人類学のゆくえー」『大阪大学日本学報』14 pp. 1-22.
- 1999 「民俗文化財の誕生：祝宮静と1975年文化財保護法改正をめぐる」『歴史学研究』726 pp. 1-13.
- 2000 「うどんとモダン：豊中市岡町における都市民俗誌のこころみ」『人文学報』83 京都大学人文科学研究所 pp. 195-225.
- 2000 「世界のかたすみでブンカを叫んだのけもの：あるいは太田好信著『トランスポジションの思想』をめぐる断想」『大阪大学日本学報』19 pp. 183-193.
- 2000 「柳田国男と民俗写真ーあるアエノコト写真のアルケオロジーー」『日本民俗学』224 pp. 1-33.
- 2001 「柳田国男が希望だったころ」『柳田国男の会 報告集』7 pp. 17-24.

■木島史雄

主要論文

- 1989 「招魂をめぐる禮俗と禮學」『中國思想史研究』13 pp. 35-62.
- 1994 「類書の發生ー『皇覽』の性格をめぐるー」『汲古』26 pp. 27-32.
- 1995 「六朝前期の孝と喪服ー禮學の目的・機能・手法ー」小南一郎編京都大学人文科学研究所研究報告『中國古代禮制研究』京都大学人文科学研究所 pp. 359-486.
- 1996 「陸徳明學術年譜」『東方學報』京都68 pp. 359-395.
- 1996 「大晉龍興皇帝三臨辟雍皇太子又再莅之盛徳隆熙之頌」にみる晉初の禮學とその實踐『中國思想史研究』19 pp. 117-133.
- 1997 「學術行爲の機能と廣がりー隋・許善心のばあいー」『東洋史研究』56-1 pp. 35-65.
- 1999 「『經典釋文』の著述構想とその變容の構圖」『東方學報』京都71 pp. 133-203.
- 2000 「『經典釋文考』」『東方學報』京都72 pp. 692-718.
- 2001 「『經典釋文』の變遷ー「舜典」釋文諸本にみるその利用環境」『東方學報』京都73 pp. 534-482.
- 2001 「籒籒をめぐる禮の諸相ー考古學／經書解釋學／金石學／考證學ー」小南一郎編京都大学人文科学研究所研究報告『中國の禮制と禮學』朋友書店 pp. 307-369.

■北垣 徹

訳書

- 1995 F. フュレ／M. オズーフ編『フランス革命事典1・2』(共訳) みすず書房
- 1996 F. K. リンガー『知の歴史社会学ーフランスとドイツにおける教養1890〜1920』(共訳) 名古屋大学出版会
- 1997 R. ブードン他編『ラールス社会学事典』(共訳) 弘文堂
- 2000 M. ゴーシェ『代表制の政治哲学』(共訳) みすず書房
- 2001 『資料 権利の宣言ー1789』(共訳) 京都大学人文科学研究所共同研究資料叢刊第6号

主要論文

- 1993 「『連帯』の理論の創出ーデュルケムを中心として」『ソシオロジ』116号 pp. 59-76.
- 1995 「新たな社会契約ーフランス第三共和政期における福祉国家の哲学的基礎」『ソシオロジ』123号 pp. 69-87.
- 1997 « Alfred Fouillée et l'idéal républicain » *Zinbun : Annals of the Institute for Research in Humanities* n° 31 pp. 83-133.
- 1998 「道徳の共和国ージュール・バルニと新カント派の政治思想」『人文学報』81 京都大学人文科学研究所 pp. 95-118.
- 2000 « De l'idée-morale à l'idée-force : la philosophie idéaliste de la Troisième République » *Zinbun : Annals of the Institute for Research in Humanities* n° 34(1) pp. 1-24.
- 2001 「万国博覧会と国際会議ーサン=シモン主義による知の組織化」『人文学報』84 京都大学人文科学研究所 pp. 23-57.
- 2001 「社会ダーウィニズムとは何だったのかー19世紀後半、フランス」阪上・上野編『ダーウィン以後の人文・社会科学』京都大学人文科学研究所 pp. 83-108.

■金 文京

著書

- 1989 『花関索伝の研究』(共著) 汲古書院
- 1989 『中国小説選』角川書店
- 1991 『教養のための中国語』大修館書店
- 1993 『三国志演義の世界』東方書店
- 1995 『広東木魚書目録』(共編) 好文出版
- 1998 『董解元西廂記諸宮調の研究』(共著) 汲古書院
- 1999 『龍谷大学大宮図書館和漢古典籍分類目録ー総記・言語・文学之部』(共編) 龍谷大学

訳書

- 2002 『老乞大』(共訳) 平凡社

主要論文

- 1998 「香菱考ー試論『紅樓夢』の另一層結構」『海上論叢』2 pp. 94-107.
- 1998 「中国の語り物文学ー説唱文学」『中国通俗文学への視座』東方書店 pp. 85-125.
- 1999 「広東木魚書と金蘭会」『嶺南学報』1 pp. 473-480.
- 1999 「中国目録学史における子部の意義」『斯道文庫論叢』33 pp. 171-206.
- 2000 「敦煌出土文書から見た唐宋時代の資頭盧信仰」『唐代の宗教』朋友書店 pp. 195-220.
- 2000 「敦煌変文の文体」『東方学報』京都72 pp. 243-265.
- 2001 「湯賓尹与晚明商業出版」『晚明与晚清的文学芸術』中央研究院中国文哲研究所(台湾) pp. 79-102.
- 2001 「大津皇子「臨終一絶」と陳後主「臨行詩」」『東方学報』京都73 pp. 185-210.
- 2001 「元雜劇「盆兒鬼」考ーしゃべるお碗の話」『説話論集』10 清文堂出版 pp. 369-397.
- 2001 「貴州農村市場における書籍の伝播」『中国近代の都市と農村』京都大学人文科学研究所 pp. 169-194.

■桑山正進

著書

- 1997 *The Main Stūpa of Shāh-jī-ki Dheri*
- 1999 『大唐西域記』西域行紀索引叢刊 I (共編) 松香堂
- 2000 『大唐大慈恩寺三藏法師傳』西域行紀索引叢刊 II

- (共編) 松香堂
2001 『釋迦方志・洛陽伽藍記・法顯傳』 西域行紀索引叢刊 III (共編) 松香堂

■古勝隆一

訳書

- 1994 任継愈等著『定本 中国仏教史』第二卷 (共訳) 柏書房

主要論文

- 1996 「郭象による『莊子』刪定」『東方学』91 pp. 59-74.
2000 「『孝経』玄宗注の成立」『東方学報』京都72 pp. 213-241.
2000 「賈大隱の『老子述義』」吉川忠夫編『唐代の宗教』朋友書店 pp. 407-433.
2000 「『御注孝経』日本蔵本略説」『経学研究論叢』9 pp. 275-286.
2001 「後漢魏晉注釈書の序文」『東方学報』京都73 pp. 1-48.
2001 「釈奠礼と義疏学」小南一郎編『中国の礼制と礼学』朋友書店 pp. 469-504.

■小林博行

著書

- 1998 『新発見事物への名づけをめぐる学内共同のこころみ』(共編) 京都大学人文科学研究所
1999 『食の思想—安藤昌益』以文社
2000 『人文学の新時代—現代自然科学との対話をもとめて』(共編) 京都大学人文科学研究所共同研究資料叢刊 2

主要論文

- 1993 「ヘッケル『一般形態学』における個性性の体系」『モルフオロギア』15 pp. 46-63.
1994 「ヘッケルの形態学の世界—「生物発生原則」を支えるもの」『現代思想』22-3 pp. 239-251.
1996 「安藤昌益の食と人倫」早川間多・森岡正博編『現代生命論研究』国際日本文化研究センター pp. 179-189.
2000 「聞きなしの成立」『人文学報』83 京都大学人文科学研究所 pp. 185-193.
2000 「1859年前後のゲーテ形態学」『モルフオロギア』22 pp. 12-22.
2000 「聞きなしにおける言語力」横山俊夫編『言語力の諸相』京都大学人文科学研究所共同研究資料叢刊 4 pp. 61-71.

■小牧幸代

主要論文

- 1993 「インド・イスラームの聖者信仰：ニザームッディーン廟の事例から」『民族学研究』58-2 pp. 198-210.
1997 「北インド・ムスリム社会の婚姻儀礼と贈与交換：ウツタル・プラデーシュ州C町のサイフィー・ピラーダリーの事例から」『アジア・アフリカ言語文化研究』54 pp. 195-214.
1997 「北インド・ムスリム社会の死の儀礼 (上)：ふたりのマハルヘムガル皇妃と寡婦」『SOGI』42 表現社、pp. 75-78.
1998 「北インド・ムスリム社会の死の儀礼 (下)：シーア派3代イマームの哀悼行事」『SOGI』43 表現社 pp. 73-76.
1999 「『アヨーディヤー症候群』という病い」木畑洋一他編『〈南〉から見た世界 06 グローバリゼーション下の苦闘：21世紀世界像の探求』大月書店 pp. 199-203.
2000 「北インド・ムスリム社会のザート=ピラーダリー・システム：ムスリム諸集団の序列化と差異化に関する一考察」『人文学報』83 京都大学人文科学研究所 pp. 275-313.

■小南一郎

著書

- 1973 『楚辞』筑摩書房

- 1984 『中国の神話と物語り』岩波書店
1991 『西王母と七夕伝承』平凡社
1995 『中国古代礼制研究』(編著) 京都大学人文科学研究所
2001 『中国の礼制と礼楽』(編著) 朋友書店

訳書

- 1969 『詩経国風・書経』(共訳) 筑摩書房
1970 『五経・論語』(共訳) 筑摩書房
1982・1989 陳寿『三国志』(共訳) 筑摩書房 (1993年に、ちくま学芸文庫に取められて再刊)
1984 夏竦『中国文明の起源』(NHKブックス) 日本放送出版協会
1989 張光直『中国青銅時代』(共訳) 平凡社
1993 『出三蔵記集・法苑珠林』(大乗仏典 中国日本篇 3) (共訳) 中央公論社
2000 張光直『中国古代文明の形成 (中国青銅時代二集)』(共訳) 平凡社

主要論文

- 1991 「王逸「楚辞章句」をめぐる—漢代章句の学の一側面」『東方学報』京都63 pp. 61-114.
1993 「神亭壺と東呉の文化」『東方学報』京都65 pp. 223-312.
1994 「漢代の祖霊観念」『東方学報』京都66 pp. 1-62.
1995 「射の儀礼化をめぐる—その二つの段階」『中国古代礼制研究』 pp. 47-116.
1995 「元白文学集団の小説創作—「鶯鶯伝」を中心に」『日本中国学会報』47 pp. 63-74.
1995 「世説新語の美学—魏晉の才と情をめぐる」『中国中世史研究統編』 pp. 434-472.
1997-1998 「干寶「搜神記」の編纂」(上)(下)『東方学報』京都69 pp. 1-71、70 pp. 95-202.
1997 「神亭壺に見る仏教受容の様相」『東方学会創立50周年記念論集』 pp. 585-598.
1998 「馬頭娘(蚕神)をめぐる神話と儀礼」『女神・聖と性の民族学』 pp. 145-199.
2000 「十王経をめぐる信仰と儀礼」『唐代の宗教』 pp. 159-194.

■阪上 孝

著書

- 1981 『フランス社会主義』新評論
1985 『1848 国家装置と民衆』(編著) ミネルヴァ書房
1987 『社会思想史』(共著) 有斐閣
1995 『人文学のアナトミー』(共編著) 岩波書店
1997 『統治技法の近代』(編著) 同文館
1999 『近代的統治の誕生』岩波書店
2000 『人文・社会科学と自然科学の対話の試み』(共編) 京都大学人文科学研究所
2001 『ダーウィン以後の人文・社会科学』(共編) 京都大学人文科学研究所

訳書

- 1974 アルチュセール『政治と歴史』(共訳) 紀伊之国屋書店
1977 アルチュセール『科学者のための哲学講義』(共訳) 福村書店
1977 『世界の思想家 ブルードン』(共編訳) 平凡社
1979 『資料 フランス社会主義』(共編訳) 平凡社
1979 ルソー『政治経済論』(『ルソー全集』5) 白水社
1989 『資料 フランス革命』(共訳) 岩波書店
1995 『フランス革命事典 1・2』(共訳) みすず書房
2002 『フランス革命期の公教育論』(編訳) 岩波文庫

主要論文

- 1990 「革命と伝統」『思想』789 pp. 151-159.
1991 「孤独と狂気」『思想』799 pp. 4-16.
1991 Révolution et tradition. *Zinbun* 24, Kyoto University, pp. 217-231.
1993 「円環とその外部」『岩波講座 現代思想』5 pp. 131-160.
1994 「フランス啓蒙と秩序」『社会思想史を学ぶ人のために』(平井俊彦編) 世界思想社 pp. 88-118.
1995 「公衆衛生の誕生」『経済論叢』156-4 pp. 1-27.
2000 「万国博覧会と科学のイデオロギー」『社会思想史研究』

- 24 pp. 27-31.
 2000 「啓蒙と旅行記」『人文学報』83 京都大学人文科学研究所 pp. 227-246.
 2001 「研究者の組織化と科学のイデオロギー」『人文学報』84 京都大学人文科学研究所 pp. 59-82.
 2001 「フランス革命—変革のプロトタイプ」『20世紀の定義 2 溶けたユートピア』岩波書店 pp. 119-143.

■坂本優一郎

著書

- 2001 『知の教科書・ウォーラーステイン』（共著・解説）講談社

主要論文

- 2001 「一八世紀のロンドン・シティとイギリス政府公債」『西洋史学』200 pp. 2-25.

■佐々木 克

著書

- 1977 『戊辰戦争』中央公論社
 1977 『常陸の歴史』（共著）講談社
 1977 『日本史(6)近代1』（共著）有斐閣
 1979 『明治国家の権力と思想』（共著）吉川弘文館
 1980 『古文書用語大辞典』（共著）柏書房
 1983 『古文書用語辞典』（共著）柏書房
 1984 『志士と官僚』ミネルヴァ書房
 1987 『滋賀県の歴史』（共著）河出書房新社
 1991 『史料京都の歴史1 概説』（共著）平凡社
 1992 『日本近代の出発 日本の歴史17』集英社
 1994 『日本の近世18 近代国家への志向』（共著）中央公論社
 1998 『大久保利通と明治維新』吉川弘文館
 2000 『志士と官僚』（増補版）講談社
 2000 『幕末・維新を考える』（共著）思文閣出版
 2000 『それぞれの明治維新』（共著）吉川弘文館
 2001 『江戸が東京となった日』講談社
 2001 『近代日本における東アジア問題』（共著）吉川弘文館
 2001 『幕末維新の彦根藩』（編著）サンライズ出版
 2001 『明治維新の新視角』（共著）高城書房

主要論文

- 1990 「明治維新时期における天皇と華族」『思想』789 pp. 130-137.
 1990 「初期議会の貴族院と華族」『人文学報』67 京都大学人文科学研究所 pp. 30-49.
 1991 「西南戦争における西郷隆盛と士族」『人文学報』68 京都大学人文科学研究所 pp. 1-46.
 1994 「赤報隊の結成と年貢半減令」『人文学報』73 京都大学人文科学研究所 pp. 109-141.
 1994 「西郷隆盛と西郷伝説」『岩波講座・日本通史16・近代1』岩波書店 pp. 325-340.
 1994 「明治天皇の巡幸と「臣民」の形成」『思想』845 pp. 95-117.
 1995 「明治天皇のイメージ形成と民衆」西川長夫編『幕末・明治期の国民国家形成と文化変容』新曜社 pp. 117-141.
 1997 「大政奉還と討幕密勅」『人文学報』80 京都大学人文科学研究所 pp. 1-35.
 2000 「戊辰戦争への道」『人文学報』83 京都大学人文科学研究所 pp. 1-17.
 2001 「攘夷と国是の位相」山室信一編『近代日本における東アジア問題』pp. 68-92.

■曾布川 寛

著書

- 1981 『崑崙山への昇仙—古代中国人が描いた死後の世界』中央公論社
 1992 『上海博物館 中国・美の名宝 第4巻』（編著）日本放送出版協会

- 1998 『世界美術大全集 東洋編第2巻 秦・漢』（共編）小学館
 2000 『龍門石窟石刻集成』（編）東洋学文献センター叢刊第9冊 京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター
 2000 『世界美術大全集 東洋編第3巻 三国・南北朝』（編著）小学館

主要論文

- 1977 「五代北宋初期山水画の一考察—荆浩・関仝・郭忠恕・燕文貴—」『東方学報』京都49 pp. 123-214.
 1977 「郭熙と早春図」『東洋史研究』35-4 pp. 61-86.
 1980 「許道寧の伝記と山水様式に関する一考察」『東方学報』京都52 pp. 451-500.
 1982 「明末清初の江南都市絵画」『明清の美術』平凡社 pp. 165-176.
 1986 「秦始皇陵と兵馬俑に関する試論」『東方学報』京都58 pp. 355-462.
 1988 「龍門石窟における唐代造像の研究」『東方学報』京都60 pp. 199-397.
 1990 「響堂山石窟考」『東方学報』京都62 pp. 165-207.
 1991 「南朝帝陵の石獸と磚画」『東方学報』京都63 pp. 115-263.
 1993 「漢代画像石における昇仙図の系譜」『東方学報』京都65 pp. 23-221.
 1994 「董其昌の文人画」『中華文人の生活』平凡社 pp. 386-433.

■高木博志

著書

- 1997 『近代天皇制の文化史的研究—天皇就任儀礼・年中行事・文化財』校倉書房

主要論文

- 1987 「明治維新と大嘗祭」『日本史研究』300 pp. 71-103.
 1989 「日本の近代化と皇室儀礼—1880年代の「旧慣」保存」『日本史研究』320 pp. 87-115.
 1991 「史蹟・名勝の成立」『日本史研究』351 pp. 63-88.
 1992 「1880年代、大和における文化財保護」『歴史学研究』629 pp. 15-22.
 1995 「初詣の成立—国民国家形成と神道儀礼の創出」西川長夫・松宮秀治編『幕末・明治期の国民国家形成と文化変容』新曜社 pp. 201-226.
 1995 「日本美術史の成立—試論—古代美術史の時代区分の成立」『日本史研究』400 pp. 74-98.
 1999 「桜とナショナリズム—日清戦争以後のソメイヨシノの植樹」西川長夫・渡辺公三編『世紀転換期の国際秩序と国民文化の形成』柏書房 pp. 147-170.
 2000 「近代における神話的古代の創造—叡傍山・神武陵・橿原神宮、三位一体の神武「聖蹟」」『人文学報』83 京都大学人文科学研究所 pp. 19-38.
 2001 「陵墓の近代—皇霊と皇室財産の形成を論点に」篠原徹編『近代日本の他者像と自画像』柏書房 pp. 130-152.
 2001 「近世の内裏空間—近代の京都御苑」島園進ほか編『岩波講座、近代日本の文化史2』岩波書店 pp. 275-310.

■高階絵里加

著書

- 2000 『異界の海—芳翠・清輝・天心における西洋』三好企画

訳書

- 1988 チャールズ・スタッキー『モネ 睡蓮』（共訳）中央公論社
 1989 ドナルド・レノルズ『19世紀の美術』（共訳）岩波書店
 1992 ジャン=ポール・クレベル『モネ』岩波書店
 1993 マリー=ロール・ベルナダック/ポール・デュ・ブーシェ『ピカソ』創元社
 1993 ロバート・ローゼンブラム『オルセー美術館の絵画』（共訳）中央公論社
 1994 サラ・カー=ガム『マネ』岩波書店

- 1996 コリン・アイスラー『エルミタージュ美術館の絵画』(共訳)中央公論社
- 1997 ピーター・モース『北斎 百人一首うばがゑるとき』岩波書店
- 2000 ルーシー・ミクスウェイト『たんけんしよう などとき美術館』フレール館
- 2001 モニカ・ボーム＝デュシェン『シャガール』岩波書店

主要論文

- 1993 「19世紀の絵画における芸術家のイメージ(要旨)」『日仏美術学会会報』12 pp. 60-61.
- 1993 「山本芳翠《十二支》についての一試論」『近代画説』2 pp. 52-74.
- 1995 「バリ時代の山本芳翠」『近代画説』4 pp.42-71
- 1995 「Un décor japonais en bretagne」, *Revue de l'Art*, n.109, pp. 60-62.
- 1996 「黒田清輝の岡倉天心像—「智感情」の主題と成立をめぐって—」『美術史』139 pp. 31-43.
- 1997 「異種交配の海—山本芳翠《浦島》をめぐって—」『近代画説』5 pp. 49-72.
- 1997 「バリ時代の山本芳翠 [資料編]」『近代画説』6 pp. 53-75.
- 1998 「山本芳翠の沖繩訪問に関する一試論」『美術史』144 pp. 141-151.

■高田時雄

著書

- 1988 『敦煌資料による中国語史の研究—九・十世紀の河西方言』(東洋学叢書33) 創文社
- 1994 『法顯傳索引』(共編)(京都大学人文科学研究所東洋学文献センター索引叢刊2)
- 1994 『中国語史の資料と方法』(編著) 京都大学人文科学研究所
- 1995 *Inventaire sommaire des manuscrits et imprimés chinois de la Bibliothèque Vaticane*, par Paul Pelliot (編) Italian School of East Asian Studies
- 1996 『東洋学の系譜(欧米篇)』(編著) 大修館書店
- 1997 『梵蒂岡圖書館所藏漢籍目録補編』(*Supplément à l'Inventaire sommaire des livres chinois de la Bibliothèque Vaticane.*) (京都大学人文科学研究所東洋学文献センター叢刊7)
- 1997 『漢字ワードボックス』(共著) 大修館書店
- 1999 『西域行記索引叢刊 I 大唐西域記』(共編) 京都、松香堂
- 2000 『西域行記索引叢刊 II 大唐大慈恩寺三藏法師傳』(共編) 京都、松香堂
- 2001 『西域行記索引叢刊 III 洛陽伽藍記・法顯傳・釋迦方志』 京都、松香堂
- 2001 『明清時代の音韻學』(編著) 京都大学人文科学研究所

訳書

- 1990 『中国の諸言語』(共訳) 大修館書店

主要論文

- 1985 「ウイグル字音考」『東方學』70 pp. 150-134
- 1988 「コータン文書中の漢語語彙」『漢語史の諸問題』京都大学人文科学研究所 pp. 71-127
- 1990 「ウイグル字音史大概」『東方學報』京都62 pp. 329-343
- 1991 「五姓を説く敦煌資料」『国立民族学博物館研究報告』別冊14 pp. 249-268
- 1992 「慧超『往五天竺國傳』の言語と敦煌寫本の性格」『慧超往五天竺國傳研究』京都大学人文科学研究所 pp. 197-212
- 1993 「チベット文字書寫「長卷」の研究(本文編)」『東方學報』京都65 pp.313-380
- 1994 「可洪隨函録と行瑠隨函音疏」『中国語史の資料と方法』京都大学人文科学研究所 pp. 109-156
- 1997 「清代官話の資料について」『東方學會創立五十周年記念東方學論集』 pp.771-784
- 1998 「藏文社 呂文書二三種」『敦煌吐魯番研究』第三卷 pp.183-190
- 2000 Multilingualism in Tun-huang. *Acta Asiatica*, 78, pp.49-70

■竹沢泰子

著書

- 1994 『日系アメリカ人のエスニシティ—強制収容と補償運動による変遷』東京大学出版会
- 1995 *Breaking the Silence: Redress and Japanese American Ethnicity*. Cornell University Press/Ithaca.

主要論文

- 1987 「アメリカ合衆国におけるステレオタイプとエスニシティ—広告とジョークにみられる民族像」『民族学研究』52 pp.363-90
- 1991 「Children of Inmates: The Effects of the Redress Movement among Third Generation Japanese Americans」, *Qualitative Sociology* 14, pp. 39-56.
- 1996 「『白人』と『黒人』の間で—日系アメリカ人の自己と他者」青木保他編『講座 文化人類学 第7巻移動の民族誌』岩波書店 pp. 263-292
- 1997 「アメリカ合衆国におけるエスニック集団の統合化—汎エスニシティの形成」ハラルド・クラインシュミット/波多野澄雄編『国際地域統合のフロンティア』彩流社 pp. 231-251.
- 1997 「アジア人移民の帰化権問題と『人種』」三輪公忠編『日米危機の起源と排日移民法』論創社 pp. 219-255.
- 1998 「グローバルゼーションと移民研究」『移民研究年報』5 pp. 68-81.
- 1999 「『人種』—生物学的概念から排他的世界観へ」『民族学研究』63-4 pp. 430-450.
- 1999 「Racial Boundaries and Stereotypes: An Analysis of American Advertising」, *The Japanese Journal of American Studies* 10 pp. 430-450.
- 1999 「アメリカ合衆国におけるアジアとヨーロッパ—アジア移民とヨーロッパ系アメリカ人の遭遇と葛藤」『岩波講座 世界歴史』23 岩波書店 pp. 111-134.
- 2000 「The Great Hanshin-Awaji Earthquake and Town-Making Towards Multiculturalism」, *Zinbun* 34(2), Kyoto University pp. 87-99.

■武田時昌

著書

- 1986 『易の世界』(共著) 新人物往来社
- 2000 『中国思想の流れ(中)』(共著) 晃陽書房

訳書

- 1989 『易のニューサイエンス—八卦・太極図とコンピュータ』(共訳) 東方書店
- 2000 現代語訳『黄帝内経靈枢』下巻(共訳) 東洋学術出版社

主要論文

- 1984 「『九章算術』の構成と数理」『中国思想史研究』6 pp. 69-125.
- 1985 「黄宗羲の図書先天の学批判—易学史の展開のなかで」『日本中国学会報』37 pp. 205-219.
- 1989 「緯書曆法考—前漢末の経学と科学の交流」山田慶兒編『中国古代科学史論』人文科学研究所 pp. 55-120.
- 1991 「『海島算経』の数理構造」山田慶兒・田中淡編『中国古代科学史論続編』人文科学研究所 pp. 173-208.
- 1993 「京房の災異思想」中村璋八編『緯学研究論叢』平河出版社 pp. 66-84.
- 1996 「三善清行『革命勘文』所引の緯書曆述」『中村璋八博士古稀記念東洋学論集』汲古書院 pp. 965-982.
- 1998 「灸経から針経へ—黎明期の中国医学とその史的展開」田中淡編『中国技術史の研究』人文科学研究所 pp. 555-598.
- 2000 「祖沖之の数学的業績(1)円周率の算定」『東方学報』京都72 pp. 658-690.
- 2000 「孔子の予言書—緯書の偽作と孔子説話」『説話・伝承学』8 pp. 14-27.
- 2001 明治期の洋算と和算 狭間直樹編『西洋近代文明と中華世界』京都大学学術出版会 pp. 394-409.

■田中 淡

著書

- 1975 『茨城県指定文化財鹿島神宮仮殿修理工事報告書』 鹿島神宮
1978 『世界の博物館 第21巻 故宮博物院』(共著) 講談社
1980 『伊賀新大仏発掘調査報告書』(共著) 新大仏寺
1980 『世界の文化史蹟 第17巻 中国の古建築』(共編) 講談社
1989 『中国建築史の研究』 弘文堂
1991 『中国古代科学史論 統篇』(共編) 京都大学人文科学研究所
1992 『中国科学史国際会議:1987京都シンポジウム報告書』(共編) 京都大学人文科学研究所
1997 『中国造園史文献目録』(編) 京都大学人文科学研究所
1998 『中国技術史の研究』(編) 京都大学人文科学研究所

訳書

- 1976 劉敦楨『中国の住宅』(共訳) 鹿島出版会
1979 アンドリュウ・ボイド『中国の建築と都市』 鹿島出版会
1979 ジョセフ・ニーダム『中国の科学と文明 第10巻 土木工学』(共訳) 思索社
1981 中国建築史編集委員会編『中国建築の歴史』 平凡社
1982 劉敦楨『中国の名庭—蘇州古典園林』 小学館
1982 中国建築科学研究院『中国の建築』(共訳) 小学館
1984 于倬雲『紫禁城宮殿』(共訳) 講談社
1993 祁英濤『中国古代建築の保護と維持修理』(監訳) 古都調査保存協力会

主要論文

- 1983 「昆明円通寺の碑文と建築・池苑」『佛教藝術』151 pp. 56-71.
1985 「古代中国の割烹と飲食」『論集東アジアの食事文化』平凡社 pp. 245-316.
1987 「中国建築からみた寝殿造の源流」『古代文化』39-11 pp. 7-27.
1988 「中国建築、庭園と鳳凰堂—天宮楼閣、神仙の苑池」『平等院大観 第1巻 建築』岩波書店 pp. 73-84.
1988 「『墨子』城守諸篇の築城工程」『古代中国科学史論』京都大学人文科学研究所 pp. 395-448.
1990 「中国造園史における初期的風格と江南庭園遺構」『東方学報』京都62 pp. 125-164.
1990 「中国の高床住居—その源流と展開」『住宅建築』181 pp. 28-34.
1991 「『墨子』城守諸篇の築城工程 (続完)」『中国古代科学史論 統篇』京都大学人文科学研究所 pp. 385-423.
1992 “Early Japanese Horticultural Treatises and Pure Land Buddhist Style: Sakuteiki and Its Background in Ancient Japan and China”, *Garden History-Issues, Approaches, Methods*, ed. Hunt, Dumbarton Oaks, Washington, pp. 79-95.
2000 「『營造法式』自序看詳総訳部分校補訳註(上)」『東方学報』京都72 pp. 771-813.

■田中雅一

著書

- 1997 *Patrons, Devotees and Goddesses: Ritual and Power among the Tamil Fishermen of Sri Lanka*. New Delhi: Manohar.
1997 『島根半島の祭祀と祭祀組織』(共編) 島根県古代文化センター
1998 『暴力の文化人類学』(編書) 京都大学学術出版会
1998 『女神—聖と性的人类学』(編書) 平凡社
1999 *Living with Śakti: Gender, Sexuality and Religion in South Asia*(co-ed.) (*Senri Ethnological Studies*. 50) National Museum of Ethnology.
2002 『供犠世界の変貌—南アジアの歴史人類学』法蔵館
2002 『植民地主義と人類学』(共編) 関西学院大学出版会

訳書

- 1995 アデル・ゲティ『女神—生ける自然の母』(平凡社イメージの博物誌30) (共訳) (*Goddess: Mother of Living Nature* by Adele Getty. London: Thames and Hudson, 1990) 平凡社
2001 ルイ・デュモン著『ホモ・ヒエラルキクス—カースト体系とその意味』(共訳) (Louis Dumont, *Homo Hierarchicus*;

Le système des castes et ses implications 1979) みすず書房

主要論文

- 1998 「女神と共同体の祝福に抗して—現代インドのサティ—(寡婦殉死) 論争」 田中雅一編『暴力の文化人類学』京都大学学術出版会 pp. 409-437.
1998 「女から女神へ—南アジアにおける神格化をめぐる」 田中雅一編『女神—聖と性的人类学』平凡社 pp. 91-120.
1998 「ヒノキは二度死ぬ—宮大工西岡常一の世界」 山折哲雄編『アジアの環境・文明・人間』法蔵館 pp.29-43.
1999 「供犠のゆくえ—コロニアル・インドとポストコロニアル・ランカ」 栗本英世・井野瀬久美恵 (共編) 『植民地経験—人類学と歴史学からのアプローチ』人文書院 pp.263-28.
1999 「射精する性—男性のセクシュアリティ言説をめぐる」 西川祐子・荻野美穂 (共編) 『共同研究 男性論』人文書院 pp. 183-200.
1999 The Navarātri Festival in Chidambaram, South India. In Masakazu Tanaka and Musashi Tachikawa eds., *Living with Śakti: Gender, Sexuality and Religion in South Asia. Senri Ethnological Studies* 50, pp. 117-135.
2000 大東亜共栄圏のインド—戦中の邦語文献におけるカーストと民衆ヒンドゥー教 中生勝美編『植民地人類学の展望』風響社 pp. 45-69.
2001 Hinduism in Singapore: Ethno-nationalization in Process In Junji KOIZUMI ed., *Dynamics of Cultures and Systems in the Pacific Rim*, Osaka University, pp. 20-34.
2001 「英国における実用人類学の系譜—ローズ・リヴィングストン研究所をめぐる」『人文学報』84 京都大学人文科学研究所 pp. 83-109.

■田中祐理子

主要論文

- 2000 「疲れの病理学—P.ジャネにおける『病氣』と『治療』」『超越文化科学紀要』5 東京大学大学院超域文化科学専攻 pp. 102-118.
2000 「免疫的生態と『身体』の接触」 小林康夫・松浦寿輝編『表象のディスクール3—身体—皮膚の修辭学』東京大学出版会 pp. 177-198.
2001 「主題としての『臨床』—臨床経験の人間学的寄与について」『臨床死生学』6 pp. 1-7.
2002 「1900年の臨床身体・試論」『身体のロマン主義とリアリズム』東京大学表象文化論研究室

■東郷俊宏

訳書

- 1997 『詳解中医基礎理論』(共訳) 東洋学術出版社
2001 『西洋近代文明と中華世界』(共訳) 京都大学学術出版会

主要論文

- 2000 「李東垣醫書における「短氣」の意義」『東方学報』京都73 pp. 303-345.
2002 “Yabuuti Kiyosi’s Research on Traditional Technology in Japan” *East Asian Science, Technology, and Medicine*, vol. 17, pp. 134-138.

■堂山英次郎

主要論文

- 1997 「古典ベルシア語における「所有」表現」『言語文化学会論集』9 pp. 225-244.
2000 Ṛgveda I 82 *hariyōjana-*, *brāhmaṇ-*, 「新しい歌」, 1. Sg. Konjunktiv 『印度学宗教学会論集』27 pp. 75-95.
2001 Ṛgveda I 82 “Das neueste Lied” und die 1. Sg. Konjunktiv—『印度学佛教学研究』49(2) pp. 1040-1038.(1-3)

■富永茂樹

著書

- 1973 『健康論序説』 エッソ・スタンダード石油 (再刊: 1977 河出書房新社)
1980 『生と死の弁証法』 (共著) 岩波書店
1981 『アンデス高地都市』 (共著) 刀水書房
1984 『自尊と懐疑—文芸社会学をめざして』 (共編) 筑摩書房
1989 『学問の現在』 (共編) 駸々堂
1991 『日本の環境教育』 (共著) ぎょうせい
1996 『都市の憂鬱—感情の社会学のために』 新曜社
1998 『ミュージアムと出会う』 淡交社
2001 『資料 権利の宣言—1789』 (編著) 京都大学人文科学研究所

訳書

- 1979 『資料 初期社会主義』 (共訳) 平凡社
1985 ジラール『身代わりの山羊』 (共訳) 法政大学出版局
1989 『資料 フランス革命』 (共訳) 岩波書店
1990 デュムシエル / デュピュイ『物の地獄—ルネ・ジラールと経済の論理』 (共訳) 法政大学出版局
1995 フレノ / オズーフ『フランス革命事典』 (共訳) みすず書房
1997 『ラール社会学辞典』 (共訳) 弘文堂
2000 ゴーシェ『代表制の政治哲学』 (共訳) みすず書房

主要論文

- 1991 La Révolution française et la crise sacrificielle, *Zinbun*, 24, Kyoto University, pp. 355-372.
1992 「徳と効用のあいだ—フランス革命期における科学と芸術」『人文学報』70 京都大学人文科学研究所 pp. 59-94.
1994 「立法者の死—政治の宗教社会学のために」『社会学評論』175 pp. 284-297.
1994 L'impossible groupement intermédiaire: été-automne 1791, *Zinbun*, 28, Kyoto University, pp. 1-22.
1996 Voice and Silence in the Public Space: the French Revolution and the Problem of the Secondary Group, *Cahier d'épistémologie*, 9607, pp. 3-22.
1997 Conserver et exposer: la naissance du musée, *Annuaire de la Société franco-japonaise de Sociologie*, no. 9, pp. 1-9.
1997 「バステューユからビセートルへ—ひととはどのようにして《市民》となるのか」阪上孝編『統治技法の近代』同文館出版 pp. 51-84.
1998 「精神療法の考古学」『精神医学史研究』vol. I, pp. 22-28.
1998 Conversation and Debate: Transformation of Sociability in Late Eighteenth-Century France, *Zinbun*, 32, Kyoto University, pp. 51-69.
2000 Autour de la liberté de la presse, *Zinbun*, 34(1), Kyoto University, pp. 147-163.
2000 「1791年の中間集団—公共性の社会学のために」『社会学評論』200, pp. 509-523.
2000 「会話と議論—18世紀フランスにおける社交の衰退」前川和也編『コミュニケーションの社会史』ミネルヴァ書房 pp. 315-350.
2001 「革命記念—1989年から1790年へ」三浦信孝編『普遍性か差異か—共和主義の臨界、フランス』藤原書店 pp. 139-154.

■富谷 至

著書

- 1992 校注『本朝度量権衡考』1・2 平凡社
1994 『ゴビに生きた男たち—李陵と蘇武』 白帝社
1995 『古代中国の刑罰—髑髏が語るもの』 中央公論社
1998 『秦漢刑罰制度の研究』 同朋舎
2001 『流沙出土の文字資料』 京都大学学術出版会

訳書

- 1986 『漢書五行志』 (共訳) 平凡社

主要論文

- 1993 「大英図書館所蔵の敦煌漢簡」『中国中世の文物』京都大学人文科学研究所 pp.1-29.

- 1996 「漢代穀倉制度—エチナ川流域の食料支給より」『東方学報』京都68 pp. 1-76.
1996 「秦漢二十等爵制と刑罰の減免」『前近代中国の刑罰』京都大学人文科学研究所 pp. 123-160.
1998 「二世紀の秦漢史研究—簡牘資料」『岩波講座世界歴史』3 岩波書店 pp. 251-276.
1999 「復讐と刑罰—前近代中国の場合」新田義之編『文化のダイナミズム』大学教育出版 pp. 146-159.
2000 「秦漢の律と令」『日本秦漢史学会会報』第1号 pp. 111-122.
2000 「晋泰始律令への道 第1部 秦漢の律と令」『東方学報』京都72 pp. 79-131.
2001 「晋泰始律令への道 第2部 魏晋の律と令」『東方学報』京都73 pp. 49-84.
2001 「スウェーデン国立民族学博物館所蔵未発表紙文書」『流沙出土の文字資料』京都大学学術出版会 pp. 177-214.
2001 「3世紀から4世紀にかけての書写材料の変遷」『流沙出土の文字資料』京都大学学術出版会 pp. 477-526.

■中西裕樹

主要論文

- 1999 「從歴時的角度的看萬載客家話的語音特点」『開篇』18, pp. 62-68.
2001 “A preliminary report on She language” 池田巧編『論集: 東・東南アジアの少数言語の現地調査』文部科学省科学研究費特定領域研究 (A) 環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究、pp. 97-106.

■藤井律之

主要論文

- 2001 「特進の起源と変遷—列侯から光禄大夫へ—」『東洋史研究』59-4 pp. 1-38.

■藤井正人

訳書

- 1988 R.G.ワットソン+W.D.オフラハティ著『聖なるキノコ—ソーマ』 (共訳) せりか書房

主要論文

- 1984 On the unexpressed gāyatra-sāman in the Jaiminiya-Upaniṣad-Brāhmaṇa. 『印度学仏教学研究』32-2 pp. 1123-1121(1-3).
1986 The Bahiṣpavamāna Ritual of the Jaiminiyas. 大阪大学文学部『待兼山論叢』20 哲学篇 pp. 3-25.
1987 The Gāyatra and Ascension to Heaven (Jaiminiya-Upaniṣad-Brāhmaṇa 1,1-7; 3,11-14). 『印度学仏教学研究』35-2, pp. 1005-1002 (16-19).
1990 「二道説の成立—後期ヴェーダの再生説—」『日本仏教学会年報』55 pp. 43-56.
1994 On the Textual Formation of the Nilamata-Purāṇa. In: Y. Ikari (ed.), *A Study of the Nilamata—Aspects of Hinduism in Ancient Kashmir—*, Institute for Research in Humanities, Kyoto University, pp. 55-82.
1995 「古代インド宗教歌詠の思想性—哲学生成の一断面—」山田慶兒・阪上孝編『人文学のアナトミー』岩波書店 pp. 99-114.
1996 「Kena-Upaniṣad (=Jaiminiya-Upaniṣad-Brāhmaṇa 4,10 [4,18-21])」『今西順吉教授還暦記念論集 インド思想と仏教文化』春秋社 pp. 842-107(107-128).
1997 On the Formation and Transmission of the Jaiminiya-Upaniṣad-Brāhmaṇa. In: Michael Witzel (ed.), *Inside the Texts, Beyond the Texts: New Approaches to the Study of the Vedas*, Harvard Oriental Series, Opera Minora 2, Cambridge, pp. 89-102.
2000 A Common Passage on the Supreme Prāṇa in the Three Earliest Upaniṣads (JUB 1, 60-2,12; BĀU 1, 3; ChU 1, 2). *Zinbun: Annals of the Institute for Research in Humanities, Kyoto Uni-*

- 2001 The Brahman Priest in the History of Vedic Texts. In: K. Karttunen & P. Koskikallio (eds.), *Vidyārnāvanandanam: Essays in Honour of Asko Parpola*, *Studia Orientalia* 94, Helsinki, pp. 147-160.

■船山 徹

主要論文

- 1990 「部分と全体——インド仏教知識論における概要と後期の問題点」『東方学報』京都62 pp. 607-635.
- 1993 A Study of *kalpanāpoḍha*: A Translation of the *Tattvasaṃgraha* vv. 1212-1263 by Śāntarakṣita and the *Tattvasaṃgrahapañjikā* by Kamalaśīla on the Definition of Direct Perception. *Zinbun: Annals of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University* 27 (1992). pp. 33-128.
- 1995 Arcaṭa, Śāntarakṣita, Jinendrabuddhi, and Kamalaśīla on the Aim of a Treatise (*prayojana*). *Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens und Archiv für indische Philosophie* 39. pp. 181-201.
- 1995 「六朝時代における菩薩戒の受容過程——劉宋・南齊期を中心に」『東方学報』京都67 pp. 1-135.
- 1996 「疑經『梵網經』成立の諸問題」『仏教史学研究』39-1 pp. 54-78.
- 1998 「陶弘景と仏教の戒律」吉川忠夫編『六朝道教の研究』春秋社 pp. 353-376.
- 1998 「『目連問戒律中五百輕重事』の原形と変遷」『東方学報』京都70 pp. 203-290.
- 1999 Kamalaśīla's Interpretation of 'Non-erroneous' in the Definition of Direct Perception and Related Problems. *Dharmakīrti's Thought and Its Impact on Indian and Tibetan Philosophy: Proceedings of the Third International Dharmakīrti Conference, Hiroshima, November 4-6, 1997*. Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften. pp. 73-99.
- 2000 「カマラシーラの直接知覚論における「意による認識」(mānasa)」『哲学研究』569 pp. 105-132.
- 2000 「梁の僧祐撰『薩婆多師資伝』と唐代仏教」吉川忠夫編『唐代の宗教』朋友書店 pp. 325-353.

■古松崇志

主要論文

- 1998 「宋代における役法と地方行政経費—財政運営の一研究—」『東洋史研究』57-1 pp. 29-66.
- 1999 「唐代後半の進奉と財政」『古代文化』51-4, pp. 15-27.
- 2000 「元代河東塩池神廟碑研究序説」『東方学報』京都72 pp. 347-379.

■前川和也

著書

- 1967 『世界の歴史2 古代オリエント』(共著) 河出書房新社
- 1973 『世界史年表』(共著) 河出書房新社
- 1993 『家族・世帯・家門 工業化以前の世界から』(編著) ミネルヴァ書房
- 1997 『ステータスと職業 社会はどのように編成されていたか』(編著) ミネルヴァ書房
- 1998 『世界の歴史1 人類の起原と古代オリエント』(共著) 中央公論社
- 2001 『コミュニケーションの社会史』(編著), ミネルヴァ書房

主要論文

- 1992 "The agricultural texts of Ur III Lagash of the British Museum (VIII)", *Acta Sumerologica* 14, pp. 173-243.
- 1993 "The agricultural texts of Ur III Lagash of the British Museum (IX)", *Acta Sumerologica* 15, pp. 107-129.
- 1994 "The management of fatted sheep (udu-niga) in Ur III Girsu-

Lagash. Supplement 2, BM 87494", *Acta Sumerologica* 16, pp. 165-176.

- 1995 "The agricultural texts of Ur III Lagash of the British Museum (X)", *Acta Sumerologica* 17, pp. 176-231.
- 1996 "Confiscation of private properties in the Ur III period. A study of é-dul-la and ní-g-GA", *Acta Sumerologica* 18, pp. 103-168.
- 1996 "The governor's family and the "temple households" in Ur III Girsu", in: K. Veenhof (ed.), *Houses and Households in Ancient Mesopotamia. Papers read at the 40th Rencontre Assyriologique Internationale, Leiden, July 5-8, 1993*, Netherlands Instituut voor het Nabije Oosten (Leiden), pp. 171-179.
- 1997 "Confiscation of private properties in the Ur III Period. A Study of é-dul-la and ní-g-GA (2). Supplement 1", *Acta Sumerologica* 19, pp. 273-291.
- 1997 "The agricultural texts of Ur III Lagash of the British Museum (XI)", *Acta Sumerologica* 19, pp. 113-145.
- 1999 "The "temples" and the "temple personnel" of Ur III Girsu-Lagash", in: K. Watanabe (ed.), *Priests and Officials in the Ancient Near East. Papers of the Second Colloquium on the Ancient Near East: The City and its Life, held at the Middle Eastern Culture Center in Japan (Mitaka, Tokyo), March 22-24 1996*, Universitätsverlag C. Winter (Heidelberg), pp. 61-102.
- 2001 "The agricultural texts of Ur III Lagash of the British Museum (XII)", *Zinbun* 34(2), Kyoto University, pp. 145-166.

■真下裕之

主要論文

- 1995 「16世紀前半のグジャラートとポルトガル—港市ディーウをめぐる諸関係—」『東洋史研究』53-4, pp. 102-140.
- 1996 「Jos. J. L. Gommans 著 *The Rise of Indo-Afghan Empire c. 1710-1780*」『西南アジア研究』44, pp. 45-55.
- 1999 「インドの図書館案内—イスラーム写本研究のために—」『イスラム世界』52, pp. 106-114.
- 1999 「*Akbar Nāmah* と *Ṭabaqāt-i Akbarī* —mansab 制度史研究序説—」『西南アジア研究』51, pp. 43-74.
- 2000 「16世紀前半北インドの Muḡul について」『東方学報』京都 72, pp. 738-720.

■水野直樹

著書

- 1991 『『アリランの歌』覚書』(共編著) 岩波書店
- 1996 『朝鮮近現代史における金日成』(共著) 神戸学生青年センター出版部
- 1996 『論集 朝鮮近現代史』(共編) 明石書店
- 1997 『京都における朝鮮人の歴史・資料集 (第1冊) ——『社会時報』関係記事——』世界人権問題研究センター
- 1998 『戦時期 植民地統治資料』全7巻 (編集) 柏書房
- 2001 『朝鮮総督報告・訓示集成』全6巻・別冊 (編集) 緑蔭書房
- 2001 『日本の植民地支配—肯定・賛美論を検証する—』(共編著) 岩波ブックレット

訳書

- 1985 姜萬吉著 『韓民族運動史論』御茶の水書房
- 1994 朝鮮民衆新聞社編 『写真集 朝鮮解放1年』新幹社

主要論文

- 1984 「コミンテルンと朝鮮——各大会の朝鮮代表の検討を中心に——」『朝鮮民族運動史研究』第1号 pp. 69-120.
- 1992 「東方被圧迫民族連合会 (1925-27) について」狭間直樹編 『中国国民革命の研究』京都大学人文科学研究所報告 pp. 309-350.
- 1996・97 「在日朝鮮人・台湾人参政権「停止」条項の成立」世界人権問題研究センター『研究紀要』第1号・第2号 pp.43-65・pp. 59-82.
- 1996 「在満朝鮮人親日団体民生団について」『論集 朝鮮近現代史』明石書店, pp. 329-361.
- 1997 「戦時期の植民地支配と「内外地行政一元化」」『人文学報』第79号, pp. 77-102.

- 1999 「朝鮮人の国外移住と日本帝国」岩波講座『世界歴史』第19巻 pp.255-275.
- 2000 「治安維持法の制定と植民地朝鮮」『人文学報』第83号 pp.97-123.
- 2000 「満洲抗日闘争の転換と金日成」『思想』第912号 pp.133-161.
- 2001 「国籍をめぐる東アジア関係——植民地期朝鮮人国籍問題の位相——」古屋哲夫・山室信一編『近代日本における東アジア問題』吉川弘文館 pp.211-237.
- 2001 「朝鮮植民地支配と名前の「差異化」」『社会と歴史』第59輯（ソウル、韓国社会史学会編、文学と知性社発行）pp.147-174.

■宮 紀子

主要論文

- 1998 「『孝経直解』の挿絵をめぐる」『東方学』95 pp.79-93.
- 1998 「『孝経直解』の出版とその時代」『中国文学報』56 pp.20-57.
- 1999 「鄭鎮孫と『直説通略』(上)」『中国文学報』58 pp.46-74.
- 1999 「大徳十一年『加封孔子制誥』をめぐる諸問題」『中国——社会と文化』14 pp.135-154.
- 1999 「鄭鎮孫と『直説通略』(下)」『中国文学報』59 pp.99-132.
- 2001 「程復心『四書章句』出版始末攷——大元ウルス治下における江南文人の保挙——」『内陸アジア言語の研究』16 pp.71-122+6pls
- 2001 「モンゴル朝廷と『三国志』」『日本中国学会報』53 pp.165-179.

■麥谷邦夫

著書

- 1985 『老子想爾注索引』朋友書店
- 1991 『真誥索引』京都大学人文科学研究所
- 2000 『真誥研究（訳注篇）』（共編）京都大学人文科学研究所

譯書

- 1983 『老子・列子』学習研究社
- 1987 『養性延命録訓注』（昭和61年度文部省科学研究費補助金 総合研究（A）「中国古代養生思想の総合的研究」研究報告書）

主要論文

- 1985 「『老子想爾注』について」『東方学報』京都57 pp.75-107.
- 1986 「南北朝隋初唐道教教義学管窺——以《道教義樞》爲綫索」『日本學者論中國哲學』中華書局 pp.267-323.
- 1992 「『大洞真經三十九章』をめぐる」『中國古道教史研究』同朋舎出版 pp.55-87.
- 1993 「梁天監十八年紀年銘墓磚と天監年間の陶弘景」『中國中世の文物』京都大学人文科学研究所 pp.291-314.
- 1995 Daoqi: Existence Between God and Man. The Comparison between Concepts of Life-Breath in East and West. Ishiyaku EuroAmerica Inc. pp.67-80.
- 1998 「陶弘景の醫藥學と道教」『六朝道教の研究』春秋社 pp.313-330.
- 1999 「唐玄宗《道德真經》注疏之撰述與其思想特徵」『道家文化研究』第15輯 pp.357-374.
- 2000 「唐代老子注釋學と佛教」『北朝隋唐 佛教思想史』法藏館 pp.456-474.
- 2000 「穀食忌避の思想——辟穀の傳統をめぐる——」『東方学報（京都）』第72册 pp.181-212/
- 2000 「『太上老君說常清靜經』考——杜光庭注との關聯で——」『唐代の宗教』朋友書店 pp.459-485.

■村上 衛

主要論文

- 2000 「清末廈門における交易構造の変動」『史学雑誌』109-3

pp.43-68.

- 2000 「五港開港期廈門における帰国華僑」『東アジア近代史』3 pp.112-130.

■森 時彦

著書

- 1983 『五四時期の民族紡績業』『五四運動の研究』第2函（同朋舎）
- 1985 『中国歴史学の新しい波』（共編著）霞山会
- 1985 『留法勤工儉学運動小史』（史会来・尚信共訳）河南人民出版社
- 1996 『データでみる中国近代史』（共著）有斐閣
- 2001 『中国近代の都市と農村』（編著）京都大学人文科学研究所
- 2001 『中国近代綿業史の研究』京都大学学術出版会

訳書

- 1976 何長工『フランス勤工儉学の回想——中国共産党の一流派』（共訳）岩波新書
- 1992-1993 金沖及主編『周恩来伝』上、中、下（共訳）阿吡社

主要論文

- 1985 「中国共産党旅欧支部の成立」『愛知大学国際問題研究所紀要』第80号 PP.1-38.
- 1986 「中国の近代化と留学生」『愛知大学国際問題研究所紀要』第81号 PP.287-328.
- 1987 「第二次広東軍政府時期の孫文」愛知大学法経学会『法経論集』法律編第113号 pp.199-239.〔(中文訳)「第二次広東軍政府時期的孫中山」『孫中山和他的時代』中華書局 1989年、上册 pp.790-820.〕
- 1989 「論民族工業“黄金時期”和国内市場の形成」『五四運動与中国文化建設』社会科学文献出版社、下册 pp.1071-1099.
- 1992 「日本棉紡工業資本対華投資与中国花紗市場——關於印棉運華聯益会的歴史意義」蒋永敬等編『近百年中日關係論文集』中華民国史料研究中心 pp.283-297.
- 1994 「土紗と機紗在近代中国の対抗——關於價格關係の剖析」『辛亥革命与近代中国』中華書局、下册 pp.937-955.
- 1995 「人口論の展開からみた一九二〇年代の中国」狭間直樹編『一九二〇年代の中国』汲古書院 pp.159-186.
- 1999 「梁啓超の經濟思想」狭間直樹編『共同研究 梁啓超』みすず書房 pp.229-254.〔(中文訳)「梁啓超の經濟思想」『梁啓超・明治日本・西方』社会科学文献出版社 2001年 pp.218-243.〕
- 2000 「生計学と經濟学の間」『東方学報』京都第72册 pp.503-523.
- 2001 「武進工業化と城郷關係」森時彦編『中国近代の都市と農村』京都大学人文科学研究所 pp.253-276.〔(中文訳)「武進織物業の近代化過程」『近代中国与世界』近刊〕

■守岡知彦

著書

- 2001 『インターネット時代の文字コード』（共著）共立出版

主要論文

- 1997 “Structure of User Interface Module for Practical Internet Messages”, *Lecture Notes in Computer Science*, Vol. 1345 pp.373-374
- 1998 “Architecture of a User Interface Modul for Structured Internet Messages”, *Lecture Notes in Computer Science*, Vol. 1368 pp.462-471
- 2001 (錦見美貴子、守岡知彦、戸村哲、半田剣一、高橋直人) 「文書編集系における文字コード」小林龍生、安岡孝一、戸村哲、三上喜貴（編）『bit別冊 インターネット時代の文字コード』共立出版 pp.120-136
- 2001 「インターネットメッセージにおける文字表現」小林龍生、安岡孝一、戸村哲、三上喜貴（編）『bit別冊 インターネット時代の文字コード』共立出版 pp.206-219

■森賀一恵

著書

- 1999 尾崎雄二郎監修『訓読説文解字注(土冊)』(共訳著) 東海大学出版会
2000 興膳宏編『六朝詩人傳』(共訳著) 大修館

主要論文

- 1984 「病名の変遷—西洋医学受容の影響を中心に」『語文』44 pp. 37-47.
1991 「説文通訓定声中蘇州方言詞語彙釈」(共著)『均社論叢』17 pp. 57-76.
1993 「エドゥアール・ピオの生涯と著作について」『日仏東洋学会通信』17 pp. 8-12.
1994 「説文通訓定声の字義体系」『中国語史の資料と方法』京都大学人文科学研究所 pp. 351-388.
2000 「四聲別義と『羣經音辨』」『興膳宏教授退官記念中国語学論文集』汲古書院 pp. 501-514.
2000 「卜辭の法表現」『東方学報』京都72 pp. 613-628.
2001 「甲骨文的形態」『甲骨文発現百周年記念国際会議論文集』倉頡首特輯 pp. 145-154.

■森本淳生

主要論文

- 1997 Signe et opération. Une étude du formalisme valéryen à l'époque des premiers Cahiers, *Zinbun* 31, Kyoto University, pp. 135-168.
1997 「ヴァレリーと19世紀末フランスの『有限主義』の系譜」『関西フランス語フランス文学』3 日本フランス語フランス文学会関西支部 pp. 14-24.
1997 Genèse du sujet — Les premiers Cahiers de Valéry et les idées contemporaines —, *Zinbun* 32, Kyoto University, pp. 1-50.
1999 Agathe ou la genèse du sujet — Valéry dans les idées contemporaines —, *Etudes de langue et littérature françaises*, 74, Société japonaise de langue et littérature françaises, pp. 111-124.
1999 Le dédoublement impossible — Une lecture du Mémoire sur l'attention 『ヴァレリー研究』1 pp. 1-50.
1999 「『危機』のディスクール—ヴァレリーと『ヨーロッパ精神』の隘路—」『仏文研究』30 京都大学フランス語学フランス文学研究会 pp. 165-184.
2000 Entre Agathe et le Mémoire sur l'attention—Essai sur l'imaginaire valéryen—, *Etudes de langue et littérature françaises*, 76, Société japonaise de langue et littérature françaises, pp. 141-153.
2000 「ポール・ヴァレリーと表象=代理の『危機』」『人文学報』83 京都大学人文科学研究所 pp.315-336
2001 Du schématisme à l'imaginaire—quelques remarques sur le problème de l'image chez Valéry 『ヴァレリー研究』2 pp. 39-54.
2001 「近代の表裏—ヴァレリーとブルトン」宇佐美齊編著『アヴァンギャルドの世紀』 京都大学学術出版会 pp. 35-72.

■安岡孝一

著書

- 1992 『誰にでも使えるUNIX講座』ソフトバンク
1993 『Logic Synthesis and Optimization』(T.Sasao編) Kluwer Academic Publishers
1999 『文字コードの世界』(共著) 東京電機大学出版局
2001 『インターネット時代の文字コード』(共編) 共立出版

主要論文

- 1992 「An Efficient Algorithm for Generating Mixed-Polarity Reed-Muller Expansions Using Shared Binary Decision Diagrams」『International Symposium on Logic Synthesis and Microprocessor Architecture in ISKIT '92』 pp. 196-199.
1995 「A New Method to Represent Sets of Products」『IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communica-

tions, and Computer Sciences』 Vol. E78-A, No. 12, pp. 1722-1728.

- 1996 「コンピュータ異体字字典の制作」『第9回語彙・辞書研究会』 pp. 1-10.
1997 「「𪛗」はなぜJIS X 0221に含まれているのか—Unicode幽霊字研究—」『情報処理学会研究報告』 Vol. 97, No. 80 (人文科学とコンピュータ研究報告No.35), 97- CH-35-9, pp. 49-54.
2000 「JIS X 0213の符号化表現」『人文学と情報処理』第26号, pp. 9-17.
2000 「The Fastest Multiplier on FPGAs with Redundant Binary Representation」『Proceedings of 10th International Conference FPL 2000』 pp. 515-524.
2001 「分散メモリ型ベクトル並列計算機上での高速整数ソートングアルゴリズムの実装」『情報処理学会論文誌: ハイパフォーマンスコンピューティングシステム』 Vol.42, No.SIG 9(HPS 3), pp. 45-53.
2001 「日本における最新文字コード事情」『システム/制御/情報』 Vol.45, No. 9, pp. 528-535. (前編) No.12, pp. 687-694. (後編)

■山室信一

著書

- 1984 『法制官僚の時代—国家の設計と知の歴史』木鐸社
1985 『近代日本の知と政治』木鐸社
1988 『学問と知識人』(共編) 岩波書店
1990 『言論とメディア』(共編) 岩波書店
1992 『近代日本の意味を問う』(共著) 木鐸社
1993 『キメラ—満洲国の肖像』中央公論社
1998 『日本・中国・朝鮮間の相互認識と誤解の表象』(編) 京都大学人文科学研究所
1999 『明六雑誌』上(校注・共編) 岩波書店
2001 『近代日本における東アジア問題』(共編) 吉川弘文館
2001 『思想課題としてのアジア—基軸・連鎖・投企—』岩波書店
2001 『近代日本の東北亜区域秩序構想』中央研究院東北亜区域研究

主要論文

- 1994 「明治国家の制度と理念」『岩波講座・日本通史17・近代2』岩波書店 pp. 113-148.
1995 「清末知識人の西洋学習と日本学習」源了圓他編『日中文化交流史叢書3・思想』大修館 pp. 474-508.
1996 「日本の国民国家形成とその思想連鎖」『日本史研究』403 pp. 97-114.
1997 「民族協和の幻像—満洲帝国の逆説」山内昌之他編『帝国とは何か』岩波書店 pp. 225-249.
1997 「政治社会における倫理—忘却と未至の間で—」鶴見俊輔他編『現代日本文化論9・倫理と道徳』岩波書店 pp. 69-100.
1998 「『多にして一』の秩序原理と日本の選択」青木保他編『「アジア的価値」とは何か』TBSブリタニカ pp. 43-63.
1999 「日本外交とアジア主義の交錯」日本政治学会編『年報政治学・1998』岩波書店 pp. 3-32.
1999 「ラストエンペラーの悲劇」This is 読売編集部編『20世紀日記抄』博文館新社 pp. 104-112.
2000 Form and Function of the Meiji State in Modern East Asia, *Zinbun* 34-1, Kyoto University, pp. 179-196.
2001 「帝国と民族」『20世紀の定義〔4〕—越境と難民の世紀』岩波書店 pp. 19-34.

■山本有造

著書

- 1979 『貿易と国際収支』(共著) 東洋経済新報社
1986 『張公権文書』目録』(共編) アジア経済研究所
1988 『幕末・明治の日本経済』(共編著) 日本経済新聞社
1989 『開港と維新』(共編著) 岩波書店
1990 『産業化の時代(下)』(共編著) 岩波書店

- 1992 『日本植民地経済史研究』名古屋大学出版会
 1992 『「満洲」関係経済文献目録』(共編) 京都大学人文科学研究所山本研究室
 1993 『「満洲国」の研究』(編著) 京都大学人文科学研究所
 1994 『両から円へ』ミネルヴァ書房
 1995 (新版) 『「満洲国」の研究』(編著) 緑蔭書房
 1999 『〈近代日本の南方関与〉に関する戦後日本刊行文献目録 (稿)』京都大学人文科学研究所山本研究室

訳書

- 1976 ヒックス、ノセ『日本経済の構造』同文館
 1977 ヒューズ『世界経済史』(共訳) マグロウヒル好学社
 2000 マルチェロ・デ・チェッコ『国際金本位制と大英帝国』三嶺書房

主要論文

- 1994 「大東亜共栄圏」構想とその構造 古屋哲夫編『近代日本のアジア認識』京都大学人文科学研究所 pp. 549-581.
 1996 「貨幣制度・貨幣政策」西川俊作ほか編『日本経済の200年』日本評論社 pp. 77-93.
 1996 「財政・財政政策」西川俊作ほか編『日本経済の200年』日本評論社 pp. 117-134.
 1996 「満洲国」生産力のマクロ的研究・序説—「満洲国産業生産指数」の検討を中心に—『経済研究』47-2 pp. 121-129.
 1997 「大東亜金融圏」論『人文学報』79 京都大学人文科学研究所 pp. 1-26.
 1997 「朝鮮」・「満洲」間陸境貿易論—地域間関係史のひとつの試み—『年報・近代日本研究』19 山川出版社 pp. 136-153.
 1997 「満洲国」国民所得統計について—一橋大学経済研究所・中核的拠点形成プロジェクト Discussion Paper No. D97-6.
 1997 「満洲国」農業生産力の数量的研究『アジア経済』38-12 pp. 32-47.
 2000 「植民地統治における「同化主義」の構造—山中モデルの批判的検討—『人文学報』83 京都大学人文科学研究所 pp. 57-73.
 2001 「日本植民地帝国と東アジア」古屋哲夫・山室信一編『近代日本における東アジア問題』吉川弘文館 pp. 286-307.

■横山俊夫

著書

- 1986 『京都大学人文科学研究所蔵日本関係欧文図書総覧—1950年以前刊行分』(編著) 京都大学人文科学研究所調査報告 34
 1987 *Japan in the Victorian Mind, A Study of Stereotyped Images of a Nation, 1850-80.* London: Macmillan Press
 1988 『一八、一九世紀節用集の政治社会学的研究』(編著) 昭和60年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)報告書 京都大学人文科学研究所
 1989 『安定期社会における人生の諸相—老人と子供』(共編著) 京都ゼミナールハウス
 1991 『安定期社会における人生の諸相—仕事と余暇』(共編著) 京都ゼミナールハウス
 1992 『視覚の一九世紀—人間・技術・文明』(編著) 思文閣出版
 1992 『安定期社会における人生の諸相—年中行事』(共編著) 京都ゼミナールハウス
 1995 『貝原益軒—天地和楽の文明学』(編著) 平凡社
 1996 『安定社会の総合研究—ものをつくる・つかう』(共編著) 京都ゼミナールハウス
 1997 『安定社会の総合研究—ことがおこる・つづく／なかだちをめぐって』(共編著) 京都ゼミナールハウス
 1998 『日用百科型節用集の使われかた—地小口手沢相の電算画像処理による使用類型析出の試み』(共著) 京都大学人文科学研究所調査報告 38
 1998 『安定社会の総合研究—ことがゆらぐ・もどる／なかだちをめぐって』(共編著) 京都ゼミナールハウス
 1998 『二十一世紀の花鳥風月—熱き風流を語る』(共編著)

中央公論社

- 1999 『久米島における東アジア諸文化の媒介事象に関する総合研究』(共編著) 平成8-10年度文部省科学研究費補助金(基盤研究A-1)報告書 京都大学人文科学研究所
 1999 『上江洲家・吉濱家・興世永家・宮城家文書目録 (稿)』(共編著) 平成8-10年度文部省科学研究費補助金(基盤研究A-1)報告書 京都大学人文科学研究所
 2000 『人文学の新時代—現代自然科学との対話をもとめて』(共編著) 京都大学人文科学研究所
 2000 『安定社会の総合研究—安定社会をみる・かたる／ことばをめぐって』(共編著) 京都ゼミナールハウス
 2000 『言語力の諸相—試行的共同研究報告』京都大学人文科学研究所
 2001 *A Prelude-Symposium for Future Seoul/ Kyoto Symposia on Language Problems in the Modern Sciences.*(共編著) 京都大学人文科学研究所
 2002 『鮫島尚信在欧書簡集』(共編著) 思文閣出版

訳書

- 1973 A. クレイグ、D. シャイヴリ編『日本の歴史と個性 (上)—近世』(共訳) ミネルヴァ書房
 1988 M. フレイザー著、H. コータツツィ編『英国公使夫人の見た明治日本』淡交社

主要論文

- 1990 「日用百科型節用集の使用態様の計量化分析法について」『人文学報』66 京都大学人文科学研究所 pp. 177-202.
 1992 「“文明人”の視覚」上記『視覚の一九世紀』pp.13-64.
 1992 「画像処理による節用集(日用百科書)の使用実態の分析」(共同執筆) 『情報処理学会研究報告』92=45/CH-92-45. pp. 37-44.
 1995 “Die Rolle der Setsuyoshu im Zivilizations- und Kulturprozess” S. Formanek & S. Linhart, eds. *Buch und Bild als gesellschaftliche Kommunikationsmittel in Japan einst und jetzt.* Wien: Literas, pp. 75-92.
 1995 「達人への道—『楽訓』を読む」上記『貝原益軒』pp. 25-68.
 1999 「久米島具志川の日選び」上記『久米島における東アジア諸文化の媒介事象に関する総合研究』京都大学人文科学研究所、所収 pp. 27-38.
 2000 “In Quest of Civility: Conspicuous Uses of Household Encyclopedias in Nineteenth-Century Japan” *Zinbun* 34(1), Kyoto University, pp. 197-222.
 2000 「方言の力」上記『言語力の諸相』京都大学人文科学研究所、所収 pp. 1-21.
 2001 “Civilising the Academic World? - recent steps in Kyoto in quest of dialogue between the humanities and the modern natural sciences” 上記 *A Prelude-Symposium..., Occasional Seminar Reports of the Institute for Research in Humanities*, 5, pp. 1-9.
 2002 「大雑書考—多神世界の媒介」『人文学報』86 京都大学人文科学研究所 pp. 25-79.

原典会読と共同研究

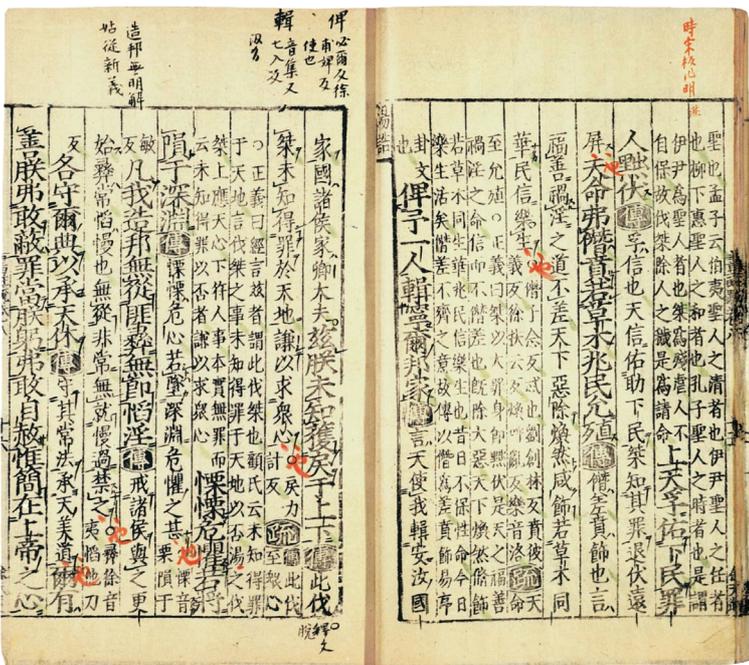
東方学研究部の前身である東方文化学院京都研究所は、中国文化の真髄を理解するための純学問的研究をめざして設立された。昭和初期、日中関係の悪化をはじめ、周囲の状況がそれと逆行してゆくなかで、時流に流されぬ学問的遺産が蓄積されていったのは、先学所員たちのなみなならぬ努力の賜物であった。

ここではまず、基礎的な文献資料の収集と整理、その校訂と一部は索引作成などが着手され、それらを土台として重要文献の会読がなされた。ここでいう会読とは複数の専門家による高い水準の共同研究にほかならず、その過程において論文や研究報告がものされ、会読の結果、校訂と訳注が生まれ、場合によって索引が作られる。現在の東方学研究部の共同研究班の多くは、こうした原典会読方式のうえにたち、自由討論を加えるスタイルをとっている。

共同研究の会読方式のほかに、東方学研究部の研究体制のいまひとつの特色として共同研究室がある。東方文化学院の初期においては、所員はあらかじめ認められた研究題目に従って、3年ごとに研究報告を提出し、所長、評議員（指導員）の審査をうけて公刊する個人研究が中心であった。しかし、経学文学（現在の哲学文学）、歴史、宗教、考古美術、天文暦算（現在の科学史）、歴史地理の6研究室において、それぞれの分野での会読が定着してゆくと、その効率的な推進のためにも研究室の果す役割が増大していった。こうして1938年の東方文化研究所改組以後は、個人研究の指導員制度はやめられ、研究室単位の研究体制に比重がうつる。

現在でも各共同研究室には関係文献や工具書類が常備されていて、東方学研究部共同研究班のいわば根拠地となっている。会読を軸とした共同研究は正式には1935年から、経学文学と天文暦算の研究室ではじまった。前者の成果は『尚書正義定本』に、後者は『漢書律曆志の研究』として世に問われた。経学文学研究室ではほかに元代の戯曲である「元曲」の研究を進め、さらに戦後には長い歳月をかけて全12冊におよぶ『唐





代研究のしおり』を刊行する一方、白居易、李商隠などいくつかの作品を会読してきた。現在科学史と改称された天文曆算研究室の活動は戦後とくに盛んで、『天工開物』の研究をはじめ、時代時代の重要文献を会読しつつ数冊の中国科学技術史の論文集をまとめた。近年では、新発見の出土資料を使った中国医学の研究が行なわれた。

歴史研究室では殷代甲骨文字、難解な元代の法典・行政文書集『元典章』、膨大な量の清代の『雍正硃批論旨』などの会読と研究が行なわれてきた。また旧現代中国部門の設置以来、五四運動から毛沢東時代まで研究班の幅を広げている。歴史地理は『水経注』の研究のほか、居延漢簡、石刻資料、都市研究などを手がけ、宗教では六朝から唐代に重点をおき、儒・仏・道教それぞれの専門知識を必要とする難解な諸文献を解読しつつ、『肇論研究』などをまとめてきた。考古美術が石窟寺院の調査とともに中国青銅器研究の先端的研究を行なっていることは広く知られるところであろう。

1949年の統合のあと、旧日本部と旧西洋部はそれぞれ一部一班のかたちで共同研究班をスタートした。日本部柏祐賢の「日本の近代化」班と西洋部桑原武夫の「ルソー研究」班がそれである。この日本近代と18世紀フランスは、今日でも依然として両部の主要な研究対象としてとりあげられている。共同研究は所員を中心に所外の専門研究者の協力をえて、3年のサイクルで成果をまとめてゆく方式のもので、つぎつぎと目ざましい業績がだされたこともあって、人文科学研究所といえば共同研究、というイメージを人びとにうつけた。専門の枠にとらわれず、自由な共同討議を通じて新しい問題をほりおこす方法は、人文科学の共同研究のあり方のひとつのモデルともなったのである。やがて旧日本部は、思想・文化に重点をおく通称「意識」班と、経済・社会をとりあげる「機構」班にわかれ、それぞれ明治維新、米騒動を研究して報告書をあらわした。一方旧西洋部も、しだいに研究領域をひろげ、社会人類学などの部門を増設して内容を多彩にしてゆく。

こうして1969年までに、両部とも思想、文化、社会の三部門ずつをそろえ、旧日本部では江戸時代末期の文化や現代の家族問題、旧西洋部では中世社会史や20世紀の政治史などの共同研究班も組織されるようになった。1981年度から外国人客員部門として増設された比較社会部門及び1985年度増設の日本学部門は、各国の研究者たちが直接本所の共同研究に一定期間、しかも継続的に参加できる道をひらいた。





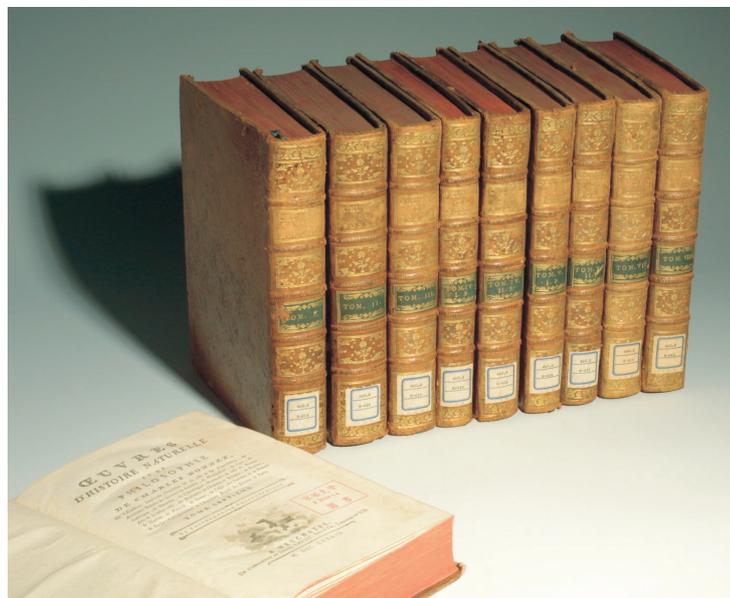
本研究所の蔵書は2001年3月31日現在51万冊、そのうち人文学研究部の書籍（和書・洋書）が本館に、東方学研究部の書籍（漢籍・和書・洋書）が分館に所蔵されている。これまでの共同研究とのかかわりで人文学研究部には明治維新、第一次世界大戦後の社会・労働問題、第二次世界大戦期の諸問題や家族問題関係の書籍が多く、18-19世紀のフランス文献も集まっている。最近では、近代日本と東アジアに関わる文献、明治初期の西欧人の日本見聞記や万国博覧会関係の図録集などの収集等にも注意が向けられている。東方学研究部のものは旧東方文化研究所と旧人文科学研究所の漢籍が軸で、旧中国関係の文献の収蔵では世界有数の質量を誇る。民国時代の蔵書家陶湘氏の旧蔵漢籍約28,000冊を中核とし、とくに叢書が完備している。研究に直接役立つことを指標に、貴重書よりも信頼できる版本を網羅的に補充する方針がとられ、1948年には漢籍総数97,000冊に達した。統合により旧人文科学研究所の漢籍47,000冊を加え、その後も鋭意充実に努めている。

文庫として、村本文庫、中江文庫、矢野文庫、松本文庫、内藤文庫、サン＝シモン・フーリエ文庫、桑原文庫、河野文庫、田中文庫、安文庫等がある。本研究所の2001年3月現在の蔵書数は、和書131,630冊、中国書305,994冊、洋書73,685冊、合計511,309冊であり、また逐次刊行物の所蔵タイトル数は、和文2,298種、中文1,495種、朝鮮・韓国文76種、欧文702種である。

図書の整理（分類）は和洋書および主として辛亥革命以後の中国書については日本十進分類法により、漢籍を中心とする蔵書は、経学・史学・諸子・詩文の書籍をそれぞれ収める経・史・子・集の四部の他に、各部にわたる書籍を収める叢書部を加えた五部分類法によっている。

本図書室も国立情報学研究所の主管する「学術情報ネットワーク」に参加し、1988年6月から受け入れた和洋書を、端末機により目録作成し、同研究所「総合目録データベース」形成の一翼になっている。また辛亥革命以後の中国書の遡及入力も附属図書館の協力により1999年から徐々に進行している。

図書



●蔵書統計 ◆収蔵書 年別内訳

年	和文	中国文	欧文	計(冊)
1955	22,837	58,974	1,201	83,012
1967	45,733	187,650	21,573	254,956
1975	64,167	214,231	31,866	310,264
1986	97,150	265,239	49,623	412,012
1995	122,470	293,732	65,838	482,040
2000	131,640	305,994	73,685	511,309

●特殊文庫

◆村本文庫	村本英秀氏(元朝日新聞社員)旧蔵書	漢籍	8,484冊
◆中江文庫	中江丑吉氏旧蔵書	漢籍 洋書	6,037冊 728冊
◆松本文庫	松本文三郎氏(京都大学名誉教授)旧蔵書	和書 漢籍 洋書	3,389冊 6,471冊 1,069冊
◆内藤文庫	内藤虎次郎氏(京都大学名誉教授)旧蔵書	漢籍 和書 洋書	1,636冊 100冊 271冊
◆矢野文庫	矢野仁一氏(京都大学名誉教授)旧蔵書	和漢洋書	697冊
◆サン=シモン・フーリエ文庫		洋書	211冊
◆桑原文庫	桑原武夫氏(京都大学名誉教授)旧蔵書	洋書	1,047冊
◆田中文庫	田中峰雄氏(甲南大学教授)旧蔵書	洋書	947冊
◆河野文庫	河野健二氏(京都大学名誉教授)旧蔵書	洋書	647冊
◆安文庫	安 秉珪氏(朝鮮史研究者)旧蔵書		1,161冊

●京都大学人文科学研究所図書室利用規程

(趣旨)

第1条 京都大学人文科学研究所図書室(以下「図書室」という。)の利用は、この規程に定めるところによる。

(図書資料)

第2条 図書室に、次の図書その他の資料(以下「図書資料」という。)を置く。

- (1) 貴重書
- (2) 普通図書
- (3) 参考図書
- (4) 逐次刊行物
- (5) その他の資料

(管理)

第3条 図書資料は書庫及び各研究室に適宜収蔵し、図書室責任者が管理する。研究室所蔵のものは、当該責任者がその管理に協力する。

(利用者)

第4条 図書室を利用できるもの(以下「利用者」という。)は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 本研究所の教職員
- (2) 本研究所の名誉教授及び名誉所員
- (3) 本研究所の元教職員、非常勤講師、非常勤教職員、招へい外国人学者、内地研究員、外国人共同研究者、研究支援推進員、及びこれに準ずる者
- (4) 本研究所の共同研究班参加者、日本学術振興会特別研究員、研修員、研究生及びこれに準ずる者
- (5) 本研究所以外の本学教職員(名誉教授を含む)、研修員、研究生及びこれに準ずる者
- (6) 本学の大学院学生及び学生
- (7) その他所長が特に認めた者

(書庫内検索)

第5条 書庫内検索は第4条第1号から第3号に該当する者にかぎり、掛員に身分証明証を提示して入庫することができる。

(開室時間)

第6条 開室時間は、月曜日から金曜日までの午前9時から正午及び午後1時から午後5時までとする。2所長が特に必要と認めたときは、前項に定める開室時間を変更することができる。

(休室日)

第7条 図書室の休室日は、次のとおりとする。

- (1) 土曜日及び日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第78号。以下「祝日法」という。)に規定する休日
- (3) 本学創立記念日(6月18日)
- (4) 本研究所創立記念行事開催日
- (5) 8月1日から8月15日
- (6) 12月26日から翌年1月5日

(7) 毎月末日(末日が土曜日、日曜日又は祝日法に規定する休日に当たるときは、次の開室日)

2 前項の規定に関わらず、所長が特に必要と認めるときは、臨時に休室又は開室することがある。

(参考調査)

第8条 利用者は、教育又は研究を目的とする場合に限り、学術に係る調査及び情報の提供を依頼することができる。

(閲覧場所)

第9条 閲覧は所定の場所で行うものとする。

(閲覧の手続き)

第10条 閲覧を希望する者は、閲覧票に必要事項を記入し、職員証又は学生証その他所属、身分を証明するものを添え、所定の手続きを経なければならない。

(学外利用者の閲覧手続き)

第11条 学外の利用者で閲覧を希望する者は、閲覧票に必要事項を記入し、公立大学間共同閲覧証又は当該機関の長若しくは図書館長の依頼状を添え、所定の手続きを経なければならない。

(貸出)

第12条 第4条第1号から第6号に掲げる者は、図書資料の貸出を受けることができる。ただし、次の各号に掲げる図書は貸出は行わない。

- (1) 貴重書
- (2) 事典、辞書及び目録類の参考図書
- (3) マイクロ資料
- (4) 視聴覚資料
- (5) その他所長が特に指定したもの

(貸出の続き)

第13条 貸出を希望する者は、職員証又は学生証その他所属、身分を証明するものを提示し、所定の手続きを経なければならない。

(貸出期間及び冊数)

第14条 図書資料の貸出期間及び冊数は、次のとおりとする。

- (1) 本研究所の教職員
 - 期間の制限はない 冊数の制限はない
- (2) 本研究所の名誉教授、名誉所員
 - 1年以内 30冊以内
- (3) 本研究所の元教職員、非常勤講師、非常勤教職員、招へい外国人学者、内地研究員、外国人共同研究者、共同研究班参加者、日本学術振興会特別研究員、研修員、研究生、及びこれに準ずる者
 - 1月以内 30冊以内
- (4) 本研究所以外の本学教職員(名誉教授を含む)、研修員、研究生、大学院生及びこれに準ずる者

1月以内 5冊以内

(5) 本学の学生

2週間以内 3冊以内

2 第4条第2号から第7号に掲げる者への製本雑誌の貸出期間は、その日に限り一時帯出することができる。

3 第4条第1号に掲げる者への未製本雑誌の貸出期間は、次の開室日までとする。又第4条第2号から第7号に掲げる者については、その日に限り一時帯出することができる。

4 所長が特に必要と認めるときは、貸出期間及び冊数を変更することがある。

(返却)

第15条 貸出を受けた図書資料は、貸出期間内に返却しなければならない。

2 利用者は、貸出期間内であってもその利用資格を失ったときは、ただちに借用している図書資料を返却しなければならない。

3 所長が特に認めたときは、貸出中の図書資料の返却を求めることがある。

(転貸の禁止)

第16条 利用者は、貸出中の図書資料を他の者に転貸してはならない。

(マイクロ資料及び視聴覚資料の利用)

第17条 マイクロ資料及び視聴覚資料は、第10条又は第11条に定める手続きを経て、所定の場所で利用しなければならない。

(事故の届出及び処置)

第18条 利用者は、利用している図書資料に汚損、破損又は紛失等の事故を生じさせたときは、ただちにその旨を所長に届け出なければならない。

2 所長は、前項の事故を生じさせた利用者に弁償を求める事ができる。

(利用の停止)

第19条 この規程に違反したものは、図書室の利用を停止することができる。

(雑則)

第20条 この規程に定める者のほか、この規程の実施に関し必要な事項は、所長が別に定める。

附則

1. この規程は平成12年1月1日から施行する。
2. 京都大学人文科学研究所図書・資料取扱規程(昭和25年6月8日制定)は廃止する。
3. 本研究所附属漢字情報研究センターの図書資料の利用は、京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター利用規程による。



漢字情報研究センター

附属研究施設

I 沿革

1962年5月、日本学術会議は人文・社会科学を振興する一方策として、学術情報体制の整備問題を取り上げ、各専門分野における学術資料を完全に収集し、これを研究者の共同利用に供するという、ドキュメンテーション・センター構想を政府に勧告した。こうした要請に応じて、当時の文部省は「人文・社会科学専門文献センター案」を作成し、1963年度から66年度にかけて、全国に5つの文献センターを設置した。1965年4月、京都大学人文科学研究所の附属施設として開設された東洋学文献センターもその一つである。

同センターは、東洋学に関する文献・資料を収集、整理して、研究者の共同利用に供すること、および東洋学に関する学術情報活動を活発に行うことを主たる目的とした。



前者については、東方文化学院京都研究所の創設以来、学問的実用書を整備することを目的として収集された、漢籍をはじめとする人文科学研究所所蔵の東洋学に関する資料を広く内外の研究者に公開するとともに、それまで比較的手薄だった分野、たとえば中国の地方志や明人の文集などの資料についても、写真複製の方法によって他の機関から系統的に受け入れることで充実をはかってきた。

後者については、これも東方文化学院京都研究所設立後まもなく、1935年4月にその第1冊が編集された『東洋史研究文献類目』を継承して、世界で発表される、東洋学に関する多数の論文および単行本を年次ごとにまとめ、内容によって分類し、さらに著者索引を附した『東洋学文献類目』を、現在に至るまで毎年刊行している。また、1963年に出版された『京都大学人文科学研究所漢籍分類目録』の後を受ける形で、人文科学研究所創立50周年の記念事業として、1979年、同所が『京都大学人文科学研究所漢籍目録』を刊行した際にも中心的役割を果たし、利用者の便宜をはかってきた。

『東洋学文献類目』は、1981年度版以降、すでにデータベース化されており、東洋学、とりわけ中国学におけるコンピュータ利用の先駆けを成した。しかし、膨大な量の歴史資料・文献のデジタル化が急速に進み、人文諸科学の性格さえ変わりつつある欧米に比べると、東洋学文献センターが共同利用に供する資料の中核たる漢字文献の場合、そのデジタル化は著しく立ち遅れていると言わざるを得ない。この情況は、漢字によって受け継がれてきた文化にとって、その将来を左右する大きな問題であり、当然のことながら、東洋学に関する学術情報活動の拠点たる同センターにおいても、その担うべき役割について再検討を迫られることとなった。

漢字文献の公開およびその国際的情報交換を円滑に行うためには、現行のコード系に依存しない大量の漢字の利用を可能にし、学術的に適正な漢字管理システムを早急に開発する必要がある。そのためには、漢字に関する専門的知識を有し、漢字文献を正しく読み解くことのできる研究者のみならず、漢字の属性を踏まえた漢字文献データベースの高度化を実現し得る情報工学系の研究者をスタッフに加えることも不可欠である。

以上のような見地に基づいて、東洋学文献センターを漢字文献の国際的情報交換の拠点にふさわしい組織に拡大改組することとなり、教授2・助教授2・助手2に教官定員が増強され、2000年4月、漢字情報研究センターとして新たなスタートを切るに至った。

II 事業活動

1. 資料収集・閲覧・複写・保存

センターが収集した文献および人文科学研究所が所蔵する東洋学関係の文献を、別に定める利用規程に従って公開し、閲覧、複写、参考業務などを行う。

2. 出版

1) 東洋学に関する論文および単行本を年次ごとにまとめ、内容によ

って分類し、さらに著者索引を附した『東洋学文献類目』を出版している。なお、1981年度版以降はデータベース化されており、Web上で直接検索できる。

<http://www.kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db/CHINA3/>

- 2) 漢字情報処理に関する各種の提言、およびセンターの活動状況を掲載した広報誌『漢字と情報』を発行している（年2回）。この広報誌はPDFファイルで読むこともできる。

<http://www.kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/publications/>

- 3) 漢籍担当職員講習会用テキストとして、「京都大学人文科学研究所漢籍カード作成要領」および「中国目録学 四部分類法について」を作成している。
- 4) 人文科学研究所の共同研究、および国内外での調査活動に基づいて作成された目録・索引等を、『東洋学文献センター叢刊』（2001年度に『東方学資料叢刊』と改称）と銘打って出版している。

3. 漢籍担当職員講習会

文部科学省と共催で、漢籍整理に携わる図書館職員等を対象に、毎年秋、五日間の講習会を開いている。漢籍に関する基礎知識が学べる「漢籍担当職員講習会」（初級もしくは中級）と、漢字情報処理に関する最新の知識が得られる「漢籍担当職員講習会（漢籍電算処理）」の二つのコースがある。

4. 全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー

東京大学法学部附属外国法文献センター、一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター、東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター、神戸大学経済経営研究所附属経営分析文献センターと共催で、上記のセミナーを年1回開催している。

5. 漢字文献データベース

- 1) 既に公開されているデータベース

ア、京都大学大型計算機センターとの共同開発によるもの

明代登科録彙編 (CHINA1)

李義山文索引 (CHINA2)

東洋学文献類目 (CHINA3) (1981年度版以降)

近現代中国人別称 (BESSHOU)

宋会要輯稿編年索引 (SOKAIYO)

中国叢書綜録未收日蔵書目稿 (SOSHO1)

イ、漢字情報研究センターのホームページから直接アクセスできるもの

<http://www.kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db/>

京都大学人文科学研究所所蔵石刻拓本資料

西域行記データベース

地図

東洋学文献類目 (1981年度版以降)

- 2) 漢籍目録データベース

国立情報学研究所および東京大学東洋文化研究所附属東洋学研



究情報センターとともに、全国漢籍データベース協議会の幹事機関となり、全国の大学図書館や公共図書館に呼びかけて漢籍目録の総合データベース構築を進めている。2001年7月、具体的な入力作業に着手し、2002年3月現在、約8万件のデータを公開するに至っている。

6. 漢字処理システムの開発

数千年の伝統を有する東アジア文化圏において、漢字はその発展の中心的役割を担ってきた。歴史的变化や地理的拡大により、文化の厚みや広がりが増していくのに並行して、漢字そのものも、時代や地域の必要性に応じて様々な変化を遂げ、その字数は拡大の一途をたどってきた。たとえど



んなに短期間であれ、また小規模な範囲であれ、一つの漢字が生み出され、それが使用されるということは、とりもなおさず、その漢字を必要とする生活が存在したということであり、また、新たな文化的試みが成されたということでもある。

そうした営みを十分に尊重し、人類の歴史の一環としてトータルに跡づけていくためには、無限に変容・増殖を遂げる漢字について、これまでの言語学的研究成果を踏まえた上で、字形・字音・字義を綿密に調査することが必要であり、さらには時代もしくは地域といったキメの細かい視点から、これら三つの要素が一つの漢字の特徴をどのように際立たせているか、という点にも注目しなければならない。

そのためには、一つの漢字についてできるだけ多くの分類指標を用いることが求められる。発音、画数、部首など周知の検索法はもちろんのこと、その漢字を実際に使用した文献の時代や地域を特定すれば、この漢字セット自体が漢字の歴史を明らかにできるようになる。これこそ漢字の戸籍簿と呼ぶにふさわしく、学術的にも非常に有用なものとなるだろう。

●漢字情報研究センター図書室利用規程

平成12年4月1日制定 平成13年3月7日改正

(通則)

第1条 京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター(以下「センター」という。)の図書室の利用は、この規程の定めるところによる。

(図書資料)

第2条 図書室に、次の図書その他の資料(以下「図書資料」という。)を置く。

- (1) 貴重書
- (2) 普通図書
- (3) 参考図書
- (4) 逐次刊行物
- (5) その他の資料

2 図書室に図書資料の目録を置き、一般の利用に供する。

(管理)

第3条 図書資料は書庫および各研究室に適宜収蔵し、図書管理者が管理する。研究室所蔵のものは、当該責任者がその管理に協力する。

(利用の内容)

第4条 この規程において利用とは、学術研究を直接目的とする図書資料の閲覧、参考調査および文献複写をいう。

貸出は、原則としてこれを行わない。ただし、センター長が特に必要とみとめたときはこの限りではない。

(利用者)

第5条 図書室を利用できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本学の教員
- (2) 国公立大学の教員
- (3) 大学院学生
- (4) 国公立の研究調査機関またはこれに準ずる機関の研究者
- (5) 前各号に準ずる者で身分証等を提示した者

(利用日時)

第6条 図書室の利用時間は、次のとおりとする。
平日 9時30分から12時00分

13時00分から16時30分

(休室日)

第7条 図書室の休室日は、次のとおりとする

- (1) 土曜日および日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律および国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律に規定する休日
- (3) 本学創立記念日(6月18日)
- (4) 夏期曝涼(8月1日から8月15日)
- (5) 年始年末(12月26日～翌年1月5日)
- (6) 毎月末日(末日が土曜日、日曜日または祝日法に規定する休日にあたる場合は、次の開室日)
前項のほか業務上特別の事由があるときは、利用を休止、または利用時間を変更することがある。

(閲覧の場所)

第8条 閲覧は、所定の場所で行うものとする。

(閲覧の手続き)

第9条 閲覧希望者は、所定の閲覧申込書を提出し、承認をうけなければならない。

(閲覧点数)

第10条 同時に閲覧できる図書資料は、5点以内とする。

(閲覧図書資料の返納)

第11条 閲覧の終わった図書資料は、係員に返納しなければならない。

(閲覧の制限)

第12条 係員の指示に従わない者および他人に迷惑をおよぼすおそれのある者に対しては、閲覧を断ることがある。

(参考調査の範囲)

第13条 参考調査の範囲は、次のとおりとする。
(1) 依頼事項に関する参考文献の紹介、その所蔵箇所および利用方法の指示

(2) その他これに準ずる情報の提供

特に時間を要し、他の業務に支障を生ずるおそれのある参考調査業務については依頼に応じられないことがある。

(参考調査の申し込み)

第14条 参考調査を依頼しようとする者は、文書または口頭により申し込むことができる。

(参考調査の回答)

第15条 参考調査の回答は、文書または口頭により行う。

(文献複写の範囲)

第16条 利用者は直接学術研究のためにセンター所管の図書資料の複写を申し込むことができる。但し、次の各号にあげる文献の複写は、申し込みに応じられない。

- (1) 著作権の侵害となるおそれのある場合
- (2) 特に時間を要し、他の業務に支障を生ずるおそれのある場合

(複写の申し込み)

第17条 複写を依頼しようとする者は、所定の複写申込書に必要事項を記入して申し込み、承認をうけなければならない。

(複写料金)

第18条 複写料金およびその取扱規定は、別に定める。

(雑則)

第19条 図書室にこの規程を置き、一般の閲覧に供する。

(改正)

第20条 この規程の改正は、センター専門委員会の議を経て、センター長が行う。

附則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。この改正規程は、平成13年3月7日から施行する。

海外学術調査・国際交流

◆◆◆ 海外学術調査

- カラコルム・ヒンズークシ学術調査
(1955年)
- イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査
(1959～1965年)
- アフリカ類人猿学術調査
(1961～1966年)
- ヨーロッパ学術調査
(1967～1972年)
- 地中海文化圏の社会と文化に関する学術調査
(1975年)
- ユーラシア西南部有畜社会の比較文化的研究
(1977～1982年)
- ヴァードゥーラ・シュラウターストラの研究
(1992年)
- ガンダーラ仏教構成の再検討
(1994～1996年)
- 欧州所蔵中央アジア出現簡牘他法制文書の総合的調査
(1994～1995年)
- イタリアにおける漢籍所在調査
(1995～1997年)
- 中国古代都市の形成に関する考古学的調査
(1995～2000年)
- スウェン・ヘディン将来考古学術資料の総合的研究
(1996～1998年)
- ヴァードゥーラ学派現存諸写本の蒐集と同派諸文献の研究
(1996年)
- 久米島諸家文書群の文化史的解明
(1996～2002年)
- 東・東南アジアの消滅の危機に瀕した言語の現地調査
(2000～2001年)
- 西南中国からヒマラヤ地域のチベット系少数言語の記述研究
(2000～2001年)
- 現存ヴェーダ文献伝承の調査と資料収集
(2001～2003年)



海外における学術調査は、東方学研究部の前身である東方文化研究所時代、1936年の中国響堂山や龍門の石窟寺院の調査研究以来、ながい歴史をもつ。とりわけ1938年から1944年まで七次におよぶ山西省雲岡石窟の学術調査は、考古・美術の両面から行われた緻密な学術調査として世界的に名高い。戦後、全30冊の報告書を刊行し、考古学の水野清一と芸術史の長廣敏雄は、1952年学士院恩賜賞の荣誉にあずかった。戦後、中国での調査が不可能になり、水野らはあたらしい調査の舞台を三大文明の交わる西南アジアにうつして、中国仏教美術の源流を探ろうとした。1959年から七次にわたるイラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査がそれであり、7冊の大部な報告書に成果がまとめられている。

旧西洋部では、人類学の今西錦司が1961年に京都大学アフリカ学術調査隊の隊長となって活躍した。さらに1967年から72年には、桑原武夫、会田雄次、梅棹忠夫らを中心として三次におよぶヨーロッパ学術調査隊が派遣された。それはあたらしい視角からヨーロッパを比較の対象として見つめ直そうとした学術調査であった。フランス・イタリア・スペイン・イギリス・スイスをはじめ、ユーゴスラヴィアからトルコまで含み、村落にはいって民衆の生活意識に直接ふれようとする意欲的なものであった。1975年以降は、谷泰らが人類学の立場を加えて、調査にとりくんだ。1975年の地中海文化圏の社会と文化に関する学術調査と、1977年から82年にいたるユーラシア南部有畜社会の比較文化史研究の二つがそれである。また、旧日本部を主軸とした国内の実態調査も1951年以降たびたび実施され、山村や漁村、都市の生活意識、家族問題など、ユニークな実態調査報告書がまとめられている。

近年は研究所として大規模な調査隊を組織することはなくなったが、所員がリーダーとなって国内外の研究機関・研究者との共同のプロジェクトを推進することは、各分野でさかんに行われている。

文化人類学の竹沢泰子は、神戸のNGOと共同で、ブラジルにおいて各地の日系人団体関係者を対象に、日本への就労移住に関して聞き取り調査を始めている。また、ヴェーダ学の井狩彌介・藤井正人は、現存ヴェーダ伝承とその社会組織の調査、ヴェーダ写本の蒐集を目的とする国際プロジェクトを立ち上げ、インド現地調査を継続しておこなっている。文化史の横山俊夫は、久米島の未公開家文書群の学際的解読を、所内研究者、本学理系研究者、沖縄県ならび



に中国福建省在住の研究者などと共同で推進、前近代東アジア文化の重層を新たな方法で解明する試みを始めている。現代生命科学を研究対象とする加藤和人は、アジア諸国におけるゲノム研究の歴史と現状に関する調査研究を2002年春から開始する予定である。

考古学の桑山正進は、ガンダーラの現存ストゥーパについて建築細部要素を正確に実測し、それを基礎にほかの諸要素を加味してストゥーパ建築に対する従来の編年を再検討し、さらにガンダーラ仏教文化の全体像を見通そうとした。岡村秀典は「中国古代都市の形成」を課題として、農学や建築学の研究者を交えた調査隊を組織し、現地の研究機関と共同で、まず長江中流域の竜山時代の城郭をもつ湖北省陰湘城遺跡、ついで黄河中流域の殷代の城郭をもつ河南省府城遺跡の発掘調査を実施した。中国の出土文書および簡牘について、梅原都はイギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン所在の出土漢文文字文書の総合的調査を行い、それをもとに富谷至は引き続いて主としてスウェーデンのスウェン・ヘディンコレクションに関する国際共同研究をおこない、2001年秋には、「楼蘭出土文字資料100周年紀年」のシンポジウムをスウェーデン大使館との共催で行った。また、富谷は2002年春から奈良シルクロード財団の研究助成のもと、河西回廊の漢代遺跡にかんして、甘肃省考古文物研究所との共同研究を始める事になっている。高田時雄は、1995年以来、ローマ国立中央図書館及びナポリ東洋大学と共同してイタリア各地に所蔵される漢籍および中国学資料の所在調査をおこなってきたが、2001年からはその調査対象範囲をスペイン・ポルトガルなど南欧諸国に拡大して調査を続行している。言語学の池田巧は、西南中国の山岳地帯に話されるチベット系諸言語の記述調査研究をすすめ、その類型構造の諸特徴を明らかにしつつある。

■受入外国人研究者

平成7年度(1995)～平成13年度(2001)

国名	外国人研究員 (客員)	招聘学者 など	研修員 など	計
米国	6	12	8	26
イタリア		3		3
インド		1		1
オーストラリア		1		1
カナダ	2	1		3
韓国	1	5	4	10
シンガポール		2		2
スイス		1		1
スウェーデン	1	2		3
台湾	1	7	1	9
中国	4	16	4	24
デンマーク		1		1
ドイツ	1	6	4	11
ニュージーランド		1		1
フランス	2	3		5
イギリス	5	5		10
オーストリア			1	1
ポーランド			1	1
フィンランド	1			1
オランダ	1			1
合計	25	67	23	115

◆◆◆ 国際交流

本所の国際交流はきわめて活発に行なわれている。中国との交流は戦前から密接であったが、最近では長期の研修留学を含めて相互の往来が絶えない。また中国学を専攻する欧米の大学院学生を研修員として受入れることも慣行化している。日本学の分野でも海外の研究者との繋りは緊密で、共同研究への外国人出席者もかなり多い。一方所員の海外渡航も活発で、若手研究者の多くは海外研修、留学を経験している。

1981年度から新設の比較社会部門と1985年増設の日本学部門は、外国人客員部門として使われ、交流の幅はさらに広がった。創立70周年にあたる1999年には、海外から多数の研究者を招いて4つの国際シンポジウムを開催するなど、国際的な学術交流の拠点としての本研究所の役割はますます重要なものとなりつつある。

■外国人研究員（客員） 平成10年度（1998）～平成13年度（2001）

国籍	氏名	現職（受入時）	期間
連合王国	Phillip Tudor Harries	オックスフォード大学クイーンズ学寮フェロー兼東洋学部副部長	1997.9～1998.4
中国	金 冲及	中共中央文献研究室副主任	1998.1～1998.7
米国	Takashi Fujitani	カリフォルニア大学サンディエゴ校歴史学部準教授	1998.6～1999.1
フランス	Pierre Bayard	パリ第8大学教授	1998.7～1999.1
ドイツ	Lambert Schmithausen	ハンブルグ大学正教授	1999.1～1999.4
フィンランド	Asko Parpola	ヘルシンキ大学教授	1999.2～1999.12
連合王国	Antony Martin Best	ロンドン大学国際関係史学部専任講師	1999.7～2000.4
スウェーデン	Staffan Rosen	ストックホルム大学東洋言語研究所教授	2000.2～2000.8
台湾	張 啓雄	中央研究院近代史研究所 研究員	2000.5～2000.8
アメリカ	Louise Young	ニューヨーク大学歴史学部 助教授	2000.9～2000.11
フランス	Marcel Henaff	カリフォルニア大学 教授	2000.10～2001.6
大韓民国	権 泰億	ソウル大学校 人文大学 教授	2000.12～2001.3
連合王国	Ian James McMullen	オックスフォード大学 講師	2001.3～2001.6
連合王国	John Breen	ロンドン大学東洋アフリカ研究院 上級講師	2001.7～2001.12
中国	楊 天石	中国社会科学院近代史研究所研究員	2001.7～2002.1
中国	張 翔	復旦大学人文学院 歴史系 教授	2002.1～2002.4
オランダ	Jan Van Bremen	ライデン大学ジャパン・コリア研究センター講師	2002.2～2002.7

■招聘外国人学者・共同研究者 平成10年度（1998）～平成13年度（2001）

京都大学招聘外国人学者等受入れ要項（1977年3月22日）が制定され、いわゆる勤務の契約によらない外国人の研究者を招聘外国人学者または外国人共同研究者として受入れることが可能になった。受入れ資格等は同要項によるほか研究所内規に定められているが、過去4年間に受入れた学者は次のとおりである。

国籍	氏名	現職（受入時）	期間
中国	陳 金華		97.11.18～99.11.17
ドイツ	KRACHT, Klaus	ベルリン＝フンボルト大学教授	98.3.10～98.4.11
大韓民国	金 慶南	釜山大学校韓民族文化研究所研究助教	98.4.1～99.10.31
ドイツ	LEINSS, Gerhard	チュービンゲン大学日本研究所専任講師	98.4.6～98.7.31
アメリカ	DOAK, Kevin	イリノイ大学歴史学部助教授	98.5.21～98.8.17
イタリア	TESTA, Giuseppina Aurora	イタリア国立東方学研究所研究員	98.9.20～00.9.19
スイス	VOEGELI, François Daniel	ローザンヌ大学文学部博士課程	98.11.1～00.10.31
アメリカ	FUJITANI, Takashi	カリフォルニア大学サンディエゴ校歴史学部準教授	99.1.12～99.3.25
中国	馬 彪	北京師範大学歴史学部助教授	99.4.1～01.3.31
アメリカ	DENNEHY, Kristine	カリフォルニア大学ロスアンゼルス校歴史学部博士課程	99.4.1～00.5.28
大韓民国	張 東翼	慶北大学校師範大学歴史教育科教授	99.9.1～00.8.30
アメリカ	CREAMER, Jennifer Marie	イリノイ大学人類学研究科博士課程	99.7.6～99.8.27
フランス	VENTURE, Oliver Franck	パリ第7大学東アジア研究科博士課程	99.7.6～99.8.27
シンガポール	王 才強	国立シンガポール大学建築系準教授	99.11.15～00.2.14
中国	李 范文	寧夏社会科学院研究員・名誉院長	99.12.1～99.12.14
中国	鍾 少華	北京社会科学院歴史研究所研究員教授	99.12.5～00.4.2
アメリカ	TUCKER, John Allen	ノース・フロリダ大学歴史・哲学・宗教学部準教授	00.1.12～00.7.20
中国	何双全	甘肅省文物考古研究所研究員教授	00.2.25～00.12.24
オーストラリア	ROWLEY, Gillian Gaye	ウェールズ大学日本研究センター元講師現在著述業	00.4.1～01.3.31
イタリア	VERARDI, Giovanni	ナポリ東洋大学アジア学部教授	00.3.1～00.3.30
連合王国	OLIVER, James Moore	オランダライデン大学中国学研究所講師	00.3.25～00.4.30
オーストラリア	ROWLEY, Gillian Gaye	ウェールズ大学日本研究センター元講師現在著述業	00.4.1～01.3.31
連合王国	BEST, Antony Martin	ロンドン大学国際関係史学部	00.5.1～00.6.30
アメリカ	HARPER, Thomas James	ロンドン大学東洋アフリカ学院上院研究員	00.5.1～01.3.31
フランス	RAULT, Jean	ルーアン美術学校教授	00.7.11～00.9.30
連合王国	FERGUSON, Harvie	グラスゴー大学助教授（Reader）	00.9.1～00.9.25
大韓民国	文 竣暎	ソウル大学校「21世紀の正解の中の韓国法の発展」教育研究団助教	00.9.20～01.9.19
大韓民国	李 鍾旿	延世大学校社会発展研究所専門研究員	00.12.25～02.12.24
大韓民国	金 琪燮	釜山大学校人文大史学科副教授	01.1.1～01.3.1
中国	胡 坦	中国蔵学研究中心教授	01.1.31～01.2.14
カナダ	CHAN Kam-Leung, Alan	国立シンガポール大学人文社会学部助教授	01.3.1～01.5.31
台湾	王 開府	国立台湾師範大学国文系教授	01.3.1～01.8.31
中国	黄 留珠	西北大学歴史系教授	01.3.20～01.5.19
ニュージーランド	MARKHAM, Elizabeth Jane	アーカンソー大学（米国）教授	01.6.10～01.7.31
ドイツ	WOLPERT, Rembrandt Friedrich	アーカンソー大学（米国）教授	01.6.10～01.7.31
中国	宮 長為	中国社会科学院歴史研究所副研究員	01.6.15～01.7.8
アメリカ	AMES, Christopher Allen	ミシガン大学人類学科博士課程	01.7.3～01.8.24
台湾	蔡 榮婷	国立中正大学中国文学系副教授	01.7.26～01.8.26
スウェーデン	KARLSSON, Anders	ロンドン大学アジアアフリカ学部講師	01.8.10～01.9.21
台湾	呉 文星	台湾師範大学歴史系教授兼系主任	01.9.1～01.11.30
イタリア	VERARDI, Giovanni	ナポリ東洋大学アジア学部教授	
中国	楊 雨青	中国人民大学歴史系副教授	01.9.16～01.9.30
中国	牟 発松	武漢大学人文学院歴史系教授	01.12.1～02.5.30
連合王国	KORNICKI, Peter Francis	ケンブリッジ大学教授	02.1.5～02.4.10

公開講座・講演会の紹介



本研究soにおいては、定例の公開講演会として、開所記念講演と夏期公開講座を行っているほか、年度末に停年退官となる所員がある年には停年退官記念講演会をも行っている。「開所記念講演」は、11月9日の開所記念日を祝して、毎年記念日に近い適当な日に、3名の講師が出て実施する。「夏期公開講座」は、原則として、毎年7月の第2週の金曜日、土曜日の2日間、4~6名の講師によって、統一テーマのもとに、主として一般市民を対象にした講演を行っている。

過去の開所記念講演会一覧

1992 (H4) 年11月5日:

- 自作を語る作家たち——創作法の公開について 鈴木啓司
- 端方と二枚の写真 浅原達郎
- 公卿の拳兵と草莽——赤報隊の結成などをめぐって 佐々木克

1993 (H5) 年11月11日:

- 貨幣の自生と自壊 安富 歩
- 木札に書かれた中国古代 富谷 至
- 論理学と私 山下正男

1994 (H6) 年11月17日:

- ミメシスの政治学——「啓蒙の弁証法」の思想圏 上野成利
- 貝原益軒——内向きの宇宙 横山俊夫
- 「世説新語」の美学——才から情へ 小南一郎

1995 (H7) 年11月16日:

- 經典の偽作と戒律——梵網經をめぐって 船山 徹
- 読む機械——啓蒙思想と活字メディア 富永茂樹
- 「満洲国」の終焉 山本有造

1996 (H8) 年11月7日:

- ローレンツ・フォン・シュタインと明治日本 瀧井一博
- 王国維の学問について 井波陵一
- ヴァードウーラ学派の新写本について 井狩彌介
- 失われた古代インド祭式文献の再発見

1997 (H9) 年11月6日:

- 中世ヴェネツィアにおける市民の「家」——都市国家理解に向けて 高田京比子
- 1930年代の日本とジェントルマン資本主義——綿業通商摩擦問題を中心に 籠谷直人
- 『大乘起信論』批判——阿梨耶識は如来蔵にあらず 荒牧典俊

1998 (H10) 年11月5日:

- ト辞の法表現 森賀一恵
- 軍事共同社会の文化人類学——宗教とジェンダー 田中雅一
- 徳川慶喜と戊辰戦争 佐々木克

1999 (H11) 年11月18日:

- 中国近代における帝国主義と国民国家 狭間直樹
- 西学の伝来と明清時代の実学思想 杜 石然
- 時間解釈と日本の影響——中国近代における過去・現在・未来の概念 マリアンヌ・バスチド-ブルギエール

2000 (H12) 年11月16日:

- 簞篋(ホキ)の名物学 木島史雄
- 祭式と輪廻——古代インド再生説の展開 藤井正人
- 元曲「盆児鬼」考——しゃべるお碗の話 金 文京

2001 (H13) 年11月15日:

- ボール・ヴァレリーと表象の危機 森本淳生
- 肖像と記憶——横山大観《陶靖節》をめぐって 高階絵里加
- 明代「嘉靖四十一年賦役黃冊」の語るもの 岩井茂樹

過去の夏期公開講座一覧

1992 (H3) 年「越境する人びと」

7月10日:

- 群衆が動くとき——フランス革命祭典への道
- 紫禁城のドルゴン
- 王道楽土に行く——「満洲国」往還

阪上 孝
谷井陽子
山室信一

7月11日:

- 近代中国の越境現象
- 漂流する小説

森 時彦
齋藤希史

1993 (H5) 年「絵とうた—文化の現場を読む」

7月9日:

- 歌い手たちの変貌——能の「コロス」とその意味づけ
- 聖歌から聖音へ——古代インド宗教歌詠の思想性
- 詩のことはば——リュートからイメージへ

藤田隆則
藤井正人
宇佐美齊

7月10日:

- 漢代画像石墓の世界
- 仏像の出現——それは大乘教典にかかわらないか
- 天皇の凶像——錦絵から御真影へ

曾布川寛
荒牧典俊
佐々木克

1994 (H6) 年「コミュニケーションにドラマを見る」

7月8日:

- 会話のトピックはいかにつくられていくか
- 禅問答

串田秀也
吉川忠夫

7月9日:

- 笑いの本地・笑いの本願
- フィクションとはなににか

谷 泰
大浦康介

1995 (H7) 年「物語としての過去」

7月7日:

- 自伝のトポス——六朝士大夫の私語りから
- 現代インドの宗教ナショナリズムが語る過去
- バビン共和国盛衰記——近世ポーランドのパロディ国家

齋藤希史
田中雅一
小山 哲

7月8日:

- 「犬と中国人は入るべからず」——上海租界伝説
- 「統治の書」と十一十二世紀の東方イスラーム世界
- 王昭君の物語——片思いの文学

石川禎浩
稲葉 穰
金 文京

1996 (H8) 年「歴史研究の新しい地平」

7月5日:

- アジアの海と日本——地域の連鎖のなかで働く人々を見つめて
- 中国の古代を掘る——日中共同発掘の現場から

籠谷直人
岡村秀典

7月6日:

- 士族は没落したか?
- 歴史における事実と真実——孫文の三民主義と毛沢東の解釈を例として

落合弘樹
狭間直樹

1997 (H9) 年「メイド・イン・ジャパンの亜細亜」

7月4日:

- アジア伝説——神功皇后からハリマオまで
- 江戸期庶民の朝鮮像

山室信一
ロナルド・トビ
(イリノイ大学教授)

7月5日:

- 明治漢学者のみた儒教の祖国
- 日本語論のなかのアジア像

陶 徳民
(関西大学助教授)
安田敏朗

1998 (H10) 年「モノとしての書物」

7月10日:

- 古代メソポタミアの粘土板
- 古代中国の木簡——紙より優れた書写材料
- 『百万塔陀羅尼』の語るどころ

前川和也
富谷 至
勝村哲也

7月11日:

- 中国古典籍のブックデザイン
- 日用百科の使われ方——十九世紀の日本
- 印刷文化と手稿 (マニスクリ)——ヴァレリーをめぐる

木島史雄
横山俊夫
森本淳生

1999 (H11) 年「時のデザイン」

7月9日:

- 明治維新と古代文化の復興
- 漢元年の惑星集合

高木博志
浅原達郎

7月10日:

- 臨床医学における時間の知——中国医学の窓から
- 創造のとき・進化のとき——ダーウィンを中心に

東郷俊宏
阪上 孝

2000 (H12) 年「人種・民族・階級」

7月7日:

- 「人種」は存在するか——文化人類学から語り直す
- 西南中国の民族と言語——社会言語学の視点から

竹沢泰子
池田 巧

7月8日:

- 故郷でインドを想い眠る——前近代におけるインドとイスラーム世界の人的交流
- インドのイスラーム教徒とカースト制度——身分の高い「民族」と低い「民族」の分類をめぐる

眞下裕之
小牧幸代

2001 (H13) 年「ヒトと環境のサイエンス」

7月6日:

- 長寿のサイエンス
- ヒトゲノムと新しい人間観

武田時昌
加藤和人

7月7日:

- 鳥は言葉を発するか——聞きなしを考える
- 北京：都市と環境

小林博行
岩井茂樹

過去の退官記念講演会一覧

1993 (H5) 年3月18日:

- 祁彪佳の寓山志と寓園

荒井 健

1994 (H6) 年3月17日:

- 近代日本の「満洲」認識

古屋哲夫

1995 (H7) 年3月16日:

- 明末清初のレジスタンス

小野和子

1997 (H9) 年3月13日:

- 王安石の周辺—宋代の史料—
- だれそれはしかじかであることを知らない——会話における異化経験と関与—

梅原 郁
谷 泰

1998 (H10) 年3月19日:

- 中江兆民の位置—明治精神史のなかで—

飛鳥井雅道

2000 (H12) 年3月9日:

- 行動のアイデンティティと環境
- 中国思想史において仏教思想とは・・・
- 小さな発見の喜び

勝村哲也
荒牧典俊
吉川忠夫

出版物

出版物は定期刊行物としての「紀要」、『東洋学文献類目』と不定期の研究報告にわけられる。紀要には邦文の『東方学報』『人文学報』と欧文の『ZINBUN』がある。『東方学報』は1931年に創刊され、以後毎年少なくとも一冊を出し、現在73冊にいたっている。東方学研究部所員の論文が中心で、日本の東洋学界を代表する雑誌のひとつとってよいだろう。旧人文からは戦前『東亜人文学報』、戦後は『人文科学』が刊行されていた。1950年11月以後、旧日本部と旧西洋部所員の研究発表誌として『人文学報』が出版されており、現在85号を数える。また1975年より欧文紀要『ZINBUN』が加えられ、両部所員が交代で執筆し、現在34冊に達している。『東洋学文献類目』は1935年に始まる『東洋史研究文献類目』を1966年に改称したもので、各年度ごとの日本、中国、欧米の東洋学関係の論文と研究書を網羅した目録である。本書は内外の学界から需要が多く、既刊1998年度まで54冊を数える。不定期刊行物としては所員の個人研究と共同研究班の研究報告があり、最近では毎年平均4、5点が公刊され、旧東方文化以来合わせて170点をこえる。このほかイラン・アフガニスタン・パキスタンの学術調査報告、38冊に及ぶ内外調査の実態報告書なども公刊されている。

人文科学研究所研究報告

ヤージュニャヴァルキヤ法典	2002	井狩彌介・渡瀬信之訳注	統治技法の近代	1997	阪上 孝編著
研究者の組織化 —その諸相（『人文学報』第84号）	2001	阪上 孝編	コミュニケーションの自然誌	1997	谷 泰編
ダーウィン以後の人文・社会科学	2001	阪上 孝・上野成利編	ステイタスと職業	1997	前川和也編
アヴァンギャルドの世紀	2001	宇佐美齊編	文学をいかに語るか	1996	大浦康介編
中國の禮制と禮學	2001	小南一郎編	前近代中国の刑罰	1996	梅原 郁編
明清時代の音韻學	2001	高田時雄編	明末清初の社會と文化	1996	小野和子編
中国近代の都市と農村	2001	森 時彦編	注釈漂流紀事	1996	飛鳥井雅道・齋藤希史編
人文・社会科学と自然科学の対話の試み	2000	阪上 孝・上野成利編	貝原益軒—天地和楽の文明学	1995	横山俊夫編
それぞれの明治維新—変革期の生き方—	2000	佐々木克編	中國古代禮制研究	1995	小南一郎編
唐代の宗教	2000	吉川忠夫編	一九二〇年代の中国	1995	狭間直樹編
眞話研究（譯注篇）	2000	吉川忠夫・麥谷邦夫編	人文学のアナトミー	1995	阪上 孝・山田慶兒編
共同研究 梁啓超 —西洋近代思想受容と明治日本—	1999	狭間直樹編	近代日本のアジア認識	1994	古屋哲夫編
長物志—明代文人の生活と意見	1999	荒井健他訳注	中華文人の生活	1994	荒井 健編
六朝道教の研究	1998	吉川忠夫編	中國語史の資料と方法	1994	高田時雄編
暴力の文化人類学	1998	田中雅一編著	漢代石刻集成 本文篇、圖版・釋文篇	1994	永田英正
中國技術史の研究	1998	田中 淡編	A Study of the Nilamata-Aspects of Hinduism in Ancient Kashmir.	1994	井狩彌介編
象徴主義の光と影	1997	宇佐美齊編著	法的思考の研究	1993	山下正男編
THE MAIN STUPA OF SHAH-JI-KI DHE-RI A Chronological Outlook	1997	桑山正進編	「満洲国」の研究	1993	山本有造編
			中國近世の法制と社會	1993	梅原 郁編
			中國中世の文物	1993	磯波 護編
			家族・世帯・家門 工業化以前の世界から	1993	前川和也編・著
			慧超往五天竺國傳研究	1992	桑山正進編
			中國國民革命の研究	1992	狭間直樹編

中國古道教史研究	1992	吉川忠夫編
視覚の一九世紀 — 人間・技術・文明 — 文化を読む	1992	横山俊夫編
中國古代科學史論續編	1991	谷 泰編
供養と靈力 (Patrons, devotees and goddesses)	1991	山田慶兒・ 田中 淡編
フランス・ロマン主義と現代	1991	田中雅一著
カーピシー=ガンダーラ史研究	1991	字佐美齊編
明末清初期の研究	1990	桑山正進著
中國古代科學史論	1989	岩見 宏・ 谷口規矩雄編
国家—理念と制度— 轉形期の中國	1989	山田慶兒編
空間の世紀	1989	中村賢二郎編
漢語史の諸問題	1988	竹内 實編
ボードレール 詩の冥府	1988	樋口謹一編
中國貴族制社會の研究	1988	尾崎雄二郎・ 平田昌司編
西南ユーラシア農牧文化複合における 栽培植物と家畜I・II (欧文)	1987	多田道太郎編
社会的相互行為の研究	1987	川勝義雄・ 礪波 護編
歴史のなかの都市—統都市の社会史	1987	谷 泰・ 阪本寧男編
日本領事報告の研究	1986	谷 泰編
名公書判清明集	1986	中村賢二郎編
ボードレール「悪の花」註釈上・下	1986	角山 栄編
戰國時代出土文物の研究	1986	梅原郁譯注
新發現中國科學史資料の研究 譯註篇, 論考篇	1986	多田道太郎編
19世紀日本の情報と社会變動	1985	林巳奈夫編
1848国家装置と民衆	1985	山田慶兒編
日中戦争史研究	1984	吉田光邦編
中國近世の都市と文化	1984	阪上 孝編
国民文化の形成	1984	古屋哲夫編
国家と価値	1984	梅原 郁編
モンテスキュー研究	1984	飛鳥井雅道編
明清時代の政治と社会	1984	上山春平編
都市の社会史	1983	樋口謹一編
空間の原型	1983	小野和子編
五四運動の研究全5函	1982~1992	中村賢二郎編
中國中世の宗教と文化	1982	上田 篤・ 多田道太郎・ 中岡義介編
植民地期朝鮮の社会と抵抗	1982	島田虔次・ 竹内 實・ 狭間直樹・ 森 時彦編
前近代における都市と社会層	1981	福永光司編
近代朝鮮の社会と思想	1981	飯沼二郎・ 姜 在彦編
ヒスパルヌス論理学綱要 —その研究と翻訳—	1981	中村賢二郎編
		飯沼二郎・ 姜 在彦編
		山下正男著



1930年代日本共產主義運動史論	1981	渡部 徹編
ヨーロッパ—1930年代	1980	河野健二編
文明開化の研究	1979	林屋辰三郎編
人類学方法論の研究	1979	谷 泰編
現代の遺言問題	1979	太田武男編
幕末文化の研究	1978	林屋辰三郎編
中國の科學と科學者	1978	山田慶兒編
知識人層と社会	1978	会田雄次・ 中村賢二郎編
辛亥革命の研究	1978	小野川秀美・ 島田虔次編
ヨーロッパの社会と文化	1977	会田雄次・ 梅棹忠夫編
フランス・ブルジョア社会の成立 —第二帝政期の研究—	1977	河野健二編
元曲選釋第3、4集	1976、77	吉川幸次郎・ 入矢義高・ 田中謙二注
疑經研究	1976	牧田諦亮著
漢代の文物	1976	林巳奈夫編
化政文化の研究	1976	林屋辰三郎編
現代の親子問題	1975	太田武男編
雲岡石窟續補—第十八洞實測圖—	1975	水野清一・ 田中重雄圖・ 日比野丈夫解説
異端運動の研究	1974	会田雄次・ 中村賢二郎編
ブルードン研究	1974	河野健二編
弘明集研究全3卷	1973~75	牧田諦亮校記譯注
日本社会主義運動史論	1973	渡部 徹・ 飛鳥井雅道編
世界史のなかの明治維新 —外国人の視角から—	1973	坂田吉雄・ 吉田光邦編
社会科学のための統計パッケージ	1973	三宅一郎編著
中國殷周時代の武器	1972	林巳奈夫著
大正期の急進的自由主義	1972	井上 清・ 渡部 徹編

白氏文集全3冊	1971～73	平岡武夫・ 今井清校定	元曲選釋第1、2集	1951、52	吉川幸次郎・ 入矢義高・ 田中謙二注
明清時代の科擧技術史	1970	藪内 清・ 吉田光邦編	ルソー研究	1951	桑原武夫編
世界資本主義の歴史構造	1970	河野健二・ 飯沼二郎編	飛天の藝術	1949	長廣敏雄著
現代の離婚問題	1970	太田武男編	漢書律曆志の研究	1947	能田忠亮・ 藪内 清著
ルソー論集	1970	桑原武夫編	經書の成立	1946	平岡武夫著
六朝時代美術の研究	1969	長廣敏雄著	隋唐曆法史の研究	1944	藪内 清著
明治前期の農業教育	1969	飯沼二郎著	北支農村經濟社會の構造とその展開	1944	柏 祐賢著
大正期の政治と社会	1969	井上 清編	古代支那工藝史に於ける帶鉤の研究	1943	長廣敏雄著
モンゴル社会經濟史の研究	1968	岩村 忍著	龍門石窟の研究	1941	水野清一・ 長廣敏雄編
文学理論の研究	1967	桑原武夫編	古銅器形態の考古學的研究	1940	梅原末治著
封建国家の権力構造	1967	清水盛光・ 会田雄次編	尚書正義定本全8冊	1939～43	經學文學研究室編
宋元時代の科擧技術史	1967	藪内 清編	古韻研究	1939	高畑彦次郎著
世界資本主義の形成	1967	河野健二・ 飯沼二郎編	禮記月令天文攷	1938	能田忠亮著
中江兆民の研究	1966	桑原武夫編	日清役後支那外交史	1937	矢野仁一著
大正デモクラシーの研究	1966	松尾尊兌著	宋本禮記疏校記	1937	常盤井賢十著
漢代畫象の研究	1966	長廣敏雄編	周秦漢三代の古紐研究上・下	1937	高畑彦次郎著
校定本元典章刑部全2冊	1964、72	岩村 忍・ 田中謙二編	支那と佛蘭西美術工藝	1937	小林太市郎著
ブルジョワ革命の比較研究	1964	桑原武夫編	響堂山石窟—河北河南省境に おける北齊時代の石窟寺院—	1937	水野清一・ 長廣敏雄著
中國中世科擧技術史の研究	1963	藪内 清編	戰國式銅器の研究	1936	梅原末治著
魏書釋老志の研究	1961	塚本善隆著	漢以前古鏡の研究	1936	梅原末治著
封建社会と共同体	1961	清水盛光・ 会田雄次編	左傳賈服注攷逸	1936	重澤俊郎著
日本技術史研究	1961	吉田光邦著	支那山水畫史 —自顧愷之至荆浩一同附圖—	1934	伊勢專一郎著
家族法研究	1961	太田武男著	唐中期の淨土教 —特に法照禪師の研究—	1933	塚本善隆著
慧遠研究全2卷	1960、62	木村英一編	周髀算經の研究	1933	能田忠亮著
清末政治思想研究	1960	小野川秀美著	桎梏の考古學的考察	1933	梅原末治著
米騒動の研究全5卷	1959～62	井上 清・ 渡部 徹編	殷墟出土白色土器の研究	1932	梅原末治著
京都大學人文科學研究所藏 甲骨文字全2卷3冊	1959～60	貝塚茂樹著			
京都地方労働運動史	1959	渡部 徹編著			
フランス革命の研究	1959	桑原武夫編			
明治前半期のナショナリズム	1958	坂田吉雄編			
ルネサンスの美術と社会	1957	会田雄次著			
林業地帯	1956	京大人文科学研究 所 林業問題研究会編			
離婚原因の研究	1956	太田武男著			
山西古蹟志	1956	水野清一・ 日比野丈夫著			
立杭窯の研究	1955	藪内 清編			
肇論研究	1955	塚本善隆編			
西ウイグル国史の研究	1955	安部健夫著			
日本労働組合運動史	1954	渡部 徹著			
フランス百科全書の研究	1954	桑原武夫編			
天工開物の研究	1953	藪内 清編			
戦国武士	1952	坂田吉雄著			
雲岡石窟全16卷	1951～56	水野清一・ 長廣敏雄著			

共同研究資料叢刊

- 第6号 資料 権利の宣言—1789
富永茂樹編 2001
- 第5号 A Prelude-Symposium for Future Seoul/Kyoto Symposia on
Language Problems in the Modern Sciences
eds. Kim Yung Sik & Yokoyama Toshio 2001
- 第4号 言語力の諸相—試行的共同研究報告—
横山俊夫編 2000
- 第3号 人文・社会科学と自然科学の対話の試み
—進化論を主題として—
阪上 孝・上野成利編 2000
- 第2号 京都大学人文科学研究70周年記念国際シンポジウム
人文学の新時代—現代自然科学との対話をもとめて—
横山俊夫・小林博行編 2000
- 第1号 国際シンポジウム
日本・中国・朝鮮間の相互認識と誤解の表象 討議集
山室信一編 1998

調査報告

- 第38号 日用百科型節用集の使われ方——地小口手沢相の
電算画像処理による使用類型析出の試み 横山俊夫・小島三弘・杉田繁治
- 第37号 近世前期政治主要人物の居所と行動 藤井譲治
- 第36号 明治中期読売新聞文芸関係記事目録 平田由美
- 第35号 京都市内およびその周辺の中世城郭 山下正男
- 第34号 京都大学人文科学研究所蔵
日本関係欧文図書総覧 横山俊夫
- 第33号 バシュトゥン遊牧民の牧畜生活 松井 健
- 第32号 続・トレギエでの対話 桑原武夫
- 第31号 都市政治家の行動と意見 三宅一郎・福島徳寿郎・村松岐夫
- 第30号 都市行政組織の構造と動態 三宅一郎・福島徳寿郎
- 第29号 都市における家族の生活 太田武男・藤岡喜愛・野川照夫・井上忠司
- 第28号 イタリア中部山村の調査報告 谷 泰・梅棹忠夫
- 第27号 山村における家族の生活 太田武男・井上忠司
- 第26号 トレギエでの対話 桑原武夫
- 第25号 ロールシャハ・テストによるパーソナリティーの調査 (IV) 藤岡喜愛
- 第24号 バスク関係文献資料集 梅棹忠夫・竹内成明
- 第23号 イギリス地域社会における面接調査記録 加藤秀俊
- 第22号 現代女性の結婚観・離婚観 太田武男・加藤秀俊
- 第21号 近世先進地域の農業構造 中村 哲
- 第20号 続・近世後進地域の農村構造 清水盛光・前田正治
- 第19号 近世後進地域の農村構造 清水盛光・前田正治
- 第18号 ロールシャハ反応集 藤岡喜愛
- 第17号 漁村の経済構造と生活意識 河野健二
- 第16号 漁民の生活条件と生活意識 河野健二
- 第15号 西日本の酒造杜氏集団 篠田 統
- 第14号 Rorschach TestによるPersonalityの調査 (III) 藤岡喜愛
- 第13号 但馬における大土地所有の形成と変遷 (VI) 河野健二・溝川喜一・森口兼二
- 第12号 山村における青年の生活 重松俊明
- 第11号 但馬における大土地所有の形成と変遷 (V) 後藤 靖
- 第10号 但馬における大土地所有の形成と変遷 (IV) 杉之原寿一
- 第9号 Rorschach TestによるPersonalityの調査 (II) 今西錦司・富川盛道・牧 康夫・藤岡喜愛
- 第8号 Rorschach TestによるPersonalityの調査 (I) 藤岡喜愛
- 第7号 但馬における大土地所有の形成と変遷 (III) 後藤 靖・高尾一彦
- 第6号 農業協同組合の実態 安達生恒・松浦龍雄
- 第5号 農村における潜在失業の実態 安達生恒・野村良樹
- 第4号 農漁村における内縁の実態 太田武男
- 第3号 農村近代化の現段階に関する調査報告 森口兼二
- 第2号 但馬における大土地所有の形成と変遷 (II) (上) (下) 天野元之助・梅溪 昇
- 第1号 但馬における大土地所有の形成と変遷 (I) 宮川 満・溝川喜一・田中 裕

京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査報告

- 1962年 ハイバクとカシュミール・スマスト
——アフガニスタンとパキスタンにおける石窟寺院の調査
水野清一編
- 1967年 ハザール・スムとフィール・ハーナ
——アフガニスタンにおける石窟遺跡の調査
水野清一編
- 1968年 ドゥルマン・テベとラルマ
——アフガニスタンにおける仏教遺跡の調査
水野清一編
- 1969年 メハサンダ
——パキスタンにおける仏教寺院の調査
水野清一編
- 1970年 チャカラク・テベ
——北部アフガニスタンにおける城塞遺跡の発掘
水野清一編
- 1971年 バサーワルとジェラーラーバード・カーブル
——アフガニスタン東南部における仏教石窟と仏塔の調査
水野清一編
- 1978年 タレリ
——ガンダーラ仏教寺院址の発掘報告
水野清一・樋口隆康編



資料集・索引等

東洋学文献センター叢刊第9冊 龍門石窟石刻集成	2000	曾布川寛編	家族問題文献集成 —戦後家族問題研究の歩み—	1970	太田武男・ 加藤秀俊・ 井上忠司編
東洋学文献センター叢刊第8冊 京都大学人文科学研究所蔵 中江丑吉文庫目録	1999	山室信一編	家族法文献集成—戦後家族法学の歩み—	1969	太田武男編
東洋学文献センター叢刊第7冊 梵蒂岡図書館所蔵漢籍目録補編	1997	高田時雄編	家族法判例集成 —日本家族法判例の系譜—	1969	太田武男編
東洋学文献センター叢刊第6冊 中国造園史文献目録	1997	田中 淡編	家族法判例集成 —日本家族法判例の系譜—	1964	太田武男編
東洋学文献センター索引叢刊第5冊 元史百官志索引	1996	徳永洋介編	家族法判例集成 —日本家族法判例の系譜—	1965～68	太田武男編
復社姓氏索引	1995	小野和子編	本邦残存典籍による輯佚資料集成正・續	1968	新美 寛・ 鈴木隆一編
東洋学文献センター索引叢刊第4冊 宋會要輯稿編年索引	1995	梅原 郁編	京都大學人文科学研究所蔵甲骨文字索引	1968	貝塚茂樹編
東洋学文献センター索引叢刊第3冊 中國叢書綜録未收日藏書目録	1995	李 銳清編	京都大學人文科学研究所漢籍分類目録附 書人名通檢上・下	1963、65	
東洋学文献センター索引叢刊第2冊 法顯傳索引	1994	桑山正進・ 高田時雄編	後漢書語彙集成全3巻	1960～62	藤田至善編
満洲国人事法今年表大同元年～康徳二年	1992	古屋哲夫編	金史語彙集成全3巻	1960～62	小野川秀美編
中国近现代論争年表上・下	1992	竹内 實編	唐代研究のしおり 特集全4巻	1957～59	斯波六郎編
五四運動の研究総索引	1992	狭間直樹・ 森 時彦編	唐代研究のしおり全12巻	1955～65	平岡武夫・ 市原亨吉・ 今井 清・ 花房英樹編
「満洲」関係経済文献目録	1992	山本有造編	東方文化研究所漢籍分類目録附 書人名通檢全2巻	1943、45	
眞誥索引	1991	麥谷邦夫編	東方文化研究所續増漢籍目録	1941	
慶元條法事類語彙輯覽	1990	梅原 郁編	宋代茶法研究資料	1941	佐伯 富編
禪の文化 資料編	1988	柳田聖山編	東方文化學院京都研究所漢籍目録	1938	
東洋学文献センター索引叢刊第1冊 李義山文索引	1984	荒井 健編	册府元龜（奉使部・外臣部）索引	1938	宇都宮清吉・ 内藤戊申編
日本新聞五四報道資料集成	1983		遼史索引	1937	若城久治郎編
西田幾多郎全蔵書目録	1983	山下正男編	東亞大陸諸國疆域圖および索引	1936～37	地理研究室編
家族法判例・文献集成〔続編〕 —戦後家族法の歩み—	1982	太田武男編	東方文化學院京都研究所新增漢籍目録	1936	
毛沢東著作年表上巻	1981		東方文化學院京都研究所漢籍簡目	1934	
祖堂集索引全3冊	1980～84	柳田聖山編	國語索引	1934	鈴木隆一編
毛沢東著作年表下巻語彙索引篇	1980				
京都大学人文科学研究所漢籍目録上・下	1979、80				
東京夢華録夢梁録等語彙索引	1979	梅原 郁編			
淮南子索引	1975	鈴木隆一編			
家族法判例・文献集成 —戦後家族法学の歩み—	1975	太田武男編			
宋元學案・宋元學案補遺 人名字號別名索引	1974	衣川 強編			
京都大学人文科学研究所蔵文図書目録 （昭和14年12月～25年3月）	1974				
京都大学人文科学研究所和漢図書目録 （昭和14年12月～25年3月）	1973				
遼金元人傳記索引	1972	梅原 郁・ 衣川 強編			
明史職官志索引稿	1972	歴史研究室編			
家族問題文献集成欧文編	1972	太田武男・ 米山俊直・ 松尾恒子・ 井上忠司編			
民報索引全2巻	1970、72	小野川秀美編			

シンポジウム論集

西洋近代文明と中華世界
—京都大学人文科学研究所70周年記念シンポジウム論集
2001 狭間直樹編



教育への貢献

人文科学研究所は個人研究、共同研究を始めとする研究活動に軸を置いているが、いっぽう、新しい世代の研究者を育成する教育活動の側面にも力を注いできた。学内の協力講座としては、全部門および漢字情報研究センターから17名の教授・助教授が文学研究科に参加しており、また、文化研究創成研究部門から1名が人間・環境学研究科に参加している。そのほか、研究所員のほぼ全員が学内のいずれかの研究科や学部で講義または演習を担当している。最近には、一・二回生を主な対象とする全学共通講義およびいわゆるポケット・ゼミなどを担当する所員も増加している。さらに平成14年度新設の大学院地球環境学堂・学舎・三才学林にはダブルアポイントメント制による支援を行う予定である。

本研究所では、博士後期課程以上の学生に共同研究という、研究科では経験できない研究活動の場を提供し、会読によってテキストを深く読むと同時に、学際的で広い視野をもつ若手研究者の養成に努めている。また、国外からの研究生、国内外の研修員ならびに学術振興会の特別研究員を広く受け入れて、共同研究への参加など、若手研究者に研鑽の場を提供している。

人文科学研究協会

この法人の前身である、東方文化研究援護会は、1946年3月旧東方文化研究所所長、故羽田亨氏によって設立され、「東洋における人文科学研究」の助成を主たる目的として事業を行ってきた。ところが、旧東方文化研究所は、1949年1月より「世界文化に関する人文科学の総合研究」を目的とする京都大学人文科学研究所に統合されることになったので、その援護会も、「広く人文科学の研究」の奨励助成を目的とする必要が生じ、変更手続をすすめ、1962年11月に認可された。こうした背景をもって発足したのが財団法人「人文科学研究協会」である。

したがって「この法人は、広く人文科学の研究を奨励助成し、もって学術及び

文化の発展に寄与することを目的」(寄附行為第3条)とし、事業所を京都大学人文科学研究所内に置き、上の目的を達するために「①人文科学に関する研究を行う者に対する助成 ②人文科学に関する研究機関に対する援助 ③人文科学に関する文献の刊行及び刊行費の補助 ④人文科学に関する学術講演会の開催及び補助 ⑤その他前条の目的を達成するために必要な事業」(第4条)を行っている。

事業の内容を紹介すれば、直接人文科学研究所およびその構成員を援助するものとして設備の寄贈、海外学者との交流の支援、公開講演活動の援助などがあり、さらに広くわが国の人文科学研究

を振興するために独自の研究業績をもつ埋もれた研究者に人文科学研究協会奨励賞を贈り、また研究所の出版物等を学界の便宜に供するなどの仕事をしている。これらの事業のための資金は、研究所を今日までささえられた先学諸氏の寄附金と、研究報告書等が一般出版社によって刊行された場合、その印税収入の一部を醸出する等の方法によって蓄えたものである。

ちなみに、初代理事長には、当時の京都大学総長平沢興氏が、常任理事には当時の人文科学研究所長の桑原武夫氏が就任したが、現在では竹内實名誉教授が理事長、阪上孝人文科学研究所長が常任理事にあっている。

歴代職員

(1949年 統合以後)

【歴代所長】

貝塚茂樹	1949.10.1~1955.9.30
塚本善隆	1955.10.1~1959.9.30
桑原武夫	1959.10.1~1963.9.30
森 鹿三	1963.10.1~1967.9.30
	1969.4.1~1970.3.31
藪内 清	1967.10.1~1969.3.31
河野健二	1970.4.1~1974.3.31
	1978.4.1~1980.3.31
林屋辰三郎	1974.4.1~1978.3.31
福永光司	1980.4.1~1982.3.31
上山春平	1982.4.1~1984.3.31
吉田光邦	1984.4.1~1985.3.31
柳田聖山	1985.4.1~1986.3.31
竹内 實	1986.4.1~1987.3.31
尾崎雄二郎	1987.4.1~1989.3.31
谷 泰	1989.4.1~1991.3.31
吉川忠夫	1991.4.1~1993.3.31
阪上 孝	1993.4.1~1997.3.31
	2001.11.1~現在
山本有造	1997.4.1~1999.8.31
桑山正進	1999.9.1~2001.10.31

【名誉所員】

牧田諦亮
田中謙二
日比野丈夫
太田武男
飯沼二郎
梅棹忠夫
上山春平
柳田聖山
竹内 實
樋口謹一
茅田道太郎
林巳奈夫
中村賢二郎
尾崎雄二郎
山田慶兒
荒井 健
古屋哲夫
山下正男
小野和子
梅原 郁
谷 泰
吉川忠夫
荒牧典俊
勝村哲也
狭間直樹
礪波 護

【事務長】

吉田良馬	1949.8~1951.8
生駒正教	1951.8~1954.11
上野左門	1954.11~1958.3
宮谷慶四郎	1958.4~1960.3
石本弥一	1960.4~1962.2
上田明吉	1962.2~1967.3
西村源次	1967.4~1970.3
位ノ花一郎	1970.4~1973.3
岩井良吉	1973.4~1975.3
笠原茂樹	1975.4~1977.3
伊佐憲治	1977.4~1979.1
丸田義雄	1979.1~1981.3
渡邊徳造	1981.4~1982.3
人見輝雄	1982.4~1984.3
須羽治夫	1984.4~1986.3
長谷川心	1986.4~1988.3
中澤 清	1988.4~1991.3
山本安武	1991.4~1993.3
川合教博	1993.4~1996.3
木村重雄	1996.4~1998.3
永井 修	1998.4~2000.3
竹内克己	2000.4~現在

【所員・助手】

1949年統合以後に本研究所を去った
研究職員

在職期間

木村英一	1940.5~1949.8
大島利一	1934.4~1949.3
荒木敏一	1940.4~1949.8
喜多村俊夫	1939.11~1949.5
柏 祐賢	1939.11~1949.5
上村鎮威	1940.4~1949.10
宮川尚志	1939.1~1949.11
小畑龍雄	1940.2~1949.12
長尾雅人	1937.3~1950.2
松田一政	1946.2~1951.6
杉之原寿一	1946.2~1951.6
永井道雄	1944.10~1951.11
前川貞次郎	1946.12~1952.3
安達生恒	1943.2~1952.4
重松俊明	1939.10~1952.4
梅溪 昇	1950.5~1953.2
紀篤太郎	1947.7~1953.4
溝川喜一	1950.6~1953.6
鶴見俊輔	1948.11~1953.12
新井(伊藤)洋子	1950.4~1954.3
越智 昇	1950.6~1954.4
飯田晶子	1950.9~1954.4
森口兼二	1949.2~1954.5
天野元之助	1948.11~1955.5
入矢義高	1939.4~1955.7
後藤 靖	1950.3~1956.10
田中 裕	1949.3~1957.4
岡崎 敬	1951.9~1957.10
本山幸彦	1949.12~1958.3
吉田静一	1953.4~1958.4
坂本慶一	1951.10~1958.11
安部健夫	1940.3~1959.2
伊藤道治	1950.3~1959.6
富岡次郎	1956.4~1960.2
塚本善隆	1929.5~1961.2
米田賢次郎	1950.3~1961.4
勝藤 猛	1956.10~1963.3
楠瀬 勝	1954.6~1964.12
山田 稔	1951.1~1964.12
今西錦司	1949.6~1965.3
倉田淳之助	1934.3~1965.3
松岡 保	1958.11~1965.3



宮崎市定	1946.10~1949.5 1959.4~1961.3 1963.4~1965.3	田中重雄	1942.7~1975.4	矢淵孝良	1980.4~1985.3	中砂明德	1990.12~1995.3
鹿子木幹雄	1965.4~1966.3	藤枝 晃	1937.7~1975.4	平田昌司	1981.10~1985.3	光永雅明	1989.11~1995.3
江口圭一	1958.4~1966.3	中西恵子	1966.4~1975.4	園田英弘	1974.4~1985.6	佐々木博光	1990.5~1995.3
藤吉慈海	1943.4~1966.3	松原正毅	1971.10~1975.9	柳田聖山	1976.4~1986.3	鈴木啓司	1987.4~1996.3
中村 哲	1959.5~1966.3	島田虔次	1949.12~1975.10	天野史朗	1979.5~1987.3	斎藤希史	1991.4~1997.3
牧 康夫	1949.9~1966.12	野村雅一	1972.7~1976.3	竹内 實	1973.5~1987.3	梅原 郁	1969.7~1997.3
貝塚茂樹	1932.5~1968.3	樺山紘一	1969.12~1976.3	宮嶋法子	1980.4~1987.3	横手 裕	1991.9~1997.3
桑原武夫	1948.11~1968.3	田中謙二	1949.6~1950.6 1956.4~1976.4	井上章一	1980.4~1987.5	谷 泰	1960.6~1968.4 1974.4~1997.3
水野清一	1930.12~1968.3	牧田諦亮	1946.4~1948.3 1950.11~1976.4	赤松明彦	1983.7~1987.10	藤田隆則	1988.4~1997.3
清水盛光	1947.6~1968.3	井上 清	1954.1~1977.4	刃田道太郎	1949.12~1988.3	新井晋司	1986.4~1997.6
笠沙雅章	1958.4~1968.3	日比野丈夫	1936.3~1977.4	樋口謹一	1949.10~1955.6 1961.4~1988.3	安富 歩	1991.4~1997.10
加藤秀俊	1953.9~1968.1	三浦國雄	1972.5~1977.3	杉山正明	1979.4~1988.3	飛鳥井雅道	1958.4~1998.3
藪内 清	1935.3~1969.3	林屋辰三郎	1970.5~1978.4	鈴木祥二	1979.4~1988.3	谷井陽子	1991.12~1999.3
長広敏雄	1929.4~1969.3	熊倉功夫	1971.4~1978.5	林 武実	1985.11~1988.3	濱田麻矢	1997.4~1999.3
岩村 忍	1950.6~1969.3	秋山元秀	1973.12~1978.10	細川弘明	1983.7~1988.3	稻本泰生	1992.11~1999.4
古原宏伸	1965.10~1969.3	内井惣七	1967.4~1979.3	淺田 彰	1981.10~1989.2	吉川忠夫	1974.4~2000.3
米田治泰	1966.7~1969.3	茂木信之	1975.3~1979.3	江田憲治	1985.4~1989.3	荒牧俊俊	1966.5~1974.6 1991.4~2000.3
坂田吉雄	1943.3~1970.3	副島昭一	1970.12~1979.3	尾崎雄二郎	1975.4~1989.3	勝村哲也	1975.10~2000.3
森 鹿三	1929.5~1970.3	夫馬 進	1974.9~1979.3	林巳奈夫	1957.12~1989.3	高田京比子	1996.1~2000.3
小川環樹	1965.6~1970.3	松田 清	1974.3~1979.3	中村賢二郎	1965.4~1989.3	矢木 毅	1993.4~2001.2
福島吉彦	1965.9~1970.3	會田雄次	1952.5~1979.3	山田慶兒	1959.10~1966.3 1970.5~1989.3	狭間直樹	1968.10~1974.3 1977.4~2001.3
佐伯 富	1968.4~1970.3	深沢一幸	1977.5~1980.3	杉本俊宏	1980.4~1989.10	小山 哲	1995.4~2001.3
井口和起	1966.6~1970.6	河野健二	1947.5~1960.2	村田裕子	1980.7~1990.3	上野成利	1993.4~2001.3
松尾尊兌	1953.10~1970.12	池田秀三	1975.12~1980.4	甚野尚志	1983.4~1990.3	安田敏朗	1996.6~2001.3
石毛直道	1965.11~1971.3	見市雅俊	1974.3~1981.3	佐原康夫	1986.4~1990.3	瀧井一博	1995.4~2001.3
藤岡喜愛	1951.11~1972.3	大前 真	1974.12~1981.3	三浦秀一	1985.11~1991.2	高嶋 航	1997.11~2001.9
寛 文生	1963.6~1964.11 1967.4~1972.3	渡部 徹	1948.11~1981.4	小林敦子	1987.4~1991.3		
脇本 繁	1948.11~1972.3	太田武男	1948.11~1981.4	井上 進	1984.7~1991.3		
望月(栖川)節子	1968.10~1973.3	飯沼二郎	1954.2~1981.4	平田由美	1982.4~1991.3		
衣川 強	1968.10~1973.3	江村治樹	1975.4~1981.11	奥村 弘	1986.4~1991.3		
竹内成明	1965.4~1973.4	御牧克己	1975.12~1982.3	河野道房	1987.6~1991.11		
平岡武夫	1938.11~1973.4	福永光司	1947.3~1948.3 1961.4~1982.4	岩熊幸男	1980.4~1992.3		
小野川秀美	1933.4~1973.4	今井 清	1945.9~1983.3	辻 正博	1988.10~1992.5		
梅棹忠夫	1965.8~1973.4	田中峰雄	1977.4~1983.3	礪波 護	1965.4~1971.11 1975.4~1993.3		
船越昭生	1961.7~1973.5	松井 健	1976.4~1983.3	荒井 健	1961.4~1967.3 1970.8~1993.3		
井上忠司	1969.4~1973.9	コーニッキー・ピーター	1983.4~1984.12	古屋哲夫	1971.4~1994.3		
橋本敬造	1966.6~1974.3	濱田正美	1976.8~1984.3	藤井讓治	1983.4~1994.3		
三宅一郎	1957.4~1974.3	川勝義雄	1950.12~1984.4	山下正男	1968.8~1994.3		
愛宕 元	1970.8~1974.7	上山春平	1954.4~1984.3	塚本 明	1989.4~1995.3		
永田英正	1962.4~1975.3	吉田光邦	1949.12~1985.3	小野和子	1954.4~1985.3 1991.4~1995.3		
市原亨吉	1950.10~1975.4						

施設

京都大学の本部がある時計台の西、吉田神社の社頭東一条に人文科学研究所の本館がある。1975年5月落成。鉄筋4階建、敷地2,097m²、建坪4,405m²、人文学研究部の全部と東方学研究部の一部が使用、事務室もここにある。設計は棚橋諒氏。本館と日仏会館の間に見えるのが、本所西館（旧日独文化研究所）である。

本館の東北1キロ、北白川の住宅地にある分館。東方文化学院京都研究所の所屋として1930年11月竣工。設計は東畑謙三氏。スペインの僧院を模したロマネスク様式に東洋風を加味した美しい建物。中央の尖塔の左側が書庫、背後に研究棟を持つ。敷地4,228m²、建坪2,712m²。現在は漢字情報研究センターと東方学研究部が共同で使用している。



「本館」は、地上4階、地下1階からなっている。1階には、所長室、事務室、会議室、ロビー、応接室などの諸施設があり、2階には、大・小会議室、談話室、図書室ならびに閲覧室があり、そのほかは研究室にあてられている。3階・4階は主として研究室となっているが、会議室もある。また、地階は、機械室、電気室、倉庫などにあてられている。書庫は、4層である。また、西側に隣接していたドイツ文化研究所を当研究所が1983年9月より使用することになり、「西館」と命名された。「西館」は研究用会議室、書庫、資料収蔵室等として利用されている。

「分館」は、北白川の住宅街にあり、地上2階、地下1階。1階は、ホールのほか、漢字情報研究センター事務室、会議室、応接室、および研究室などにあてられ、2階は、講堂（平常は閲覧室として使用）、書庫、図書室となっている。書庫は、鉄骨3層で採光に留意した特殊な構造で、主として漢籍を収蔵する。建物の老朽化対策と書庫の

収容能力向上のため、1996年から翌年にかけて「分館」の大規模な改修工事が行われた。これとともない、旧管理人室および地下のかなりの部分が書庫として利用されるようになったが、将来における蔵書の確実な増加を見込んだ解決策とはなっていない。また、学術的評価の高い考古発掘資料、考古美術参考品、雲岡石窟調査資料、拓本、古地図等の莫大な量にのぼるこれら資料を収蔵するため、資料収蔵庫が分館の敷地内に1980年3月に新築されている。

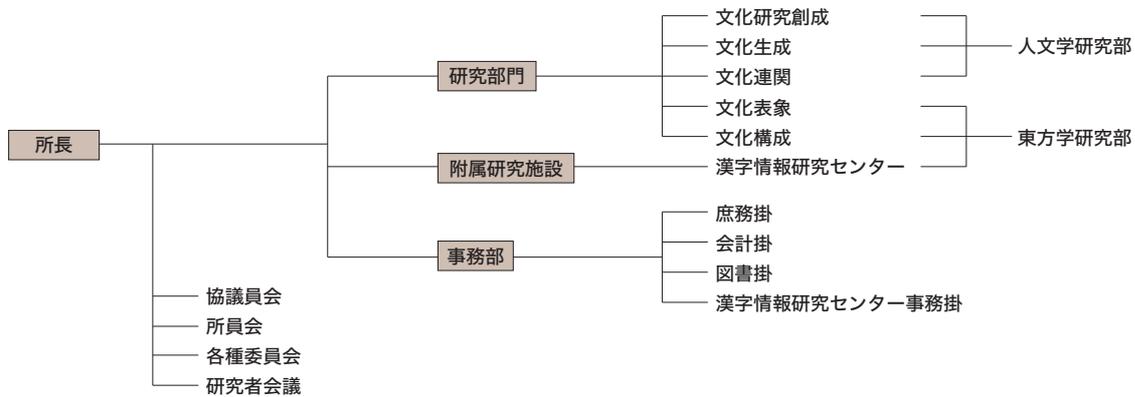
「本館」ならびに「分館」の、敷地面積などは、つぎのとおりである。

建物名称	敷地面積	建築面積	建物延面積
本館	2,097㎡	1,068㎡	4,405㎡
西館	469㎡	201㎡	487㎡
分館	4,228㎡	1,692㎡	2,712㎡

(収蔵庫・管理人室を含む)

組織・所員

人文科学研究所は、5部門、1附属研究施設からなる大部門制をとっている。研究の遂行と運営の便宜上、これらは人文学研究部、東方学研究部の2部に分けられているが、複数の部・部門にまたがる共同研究、学際的な共同研究を組織、運営することによって、学問が過度に専門化する弊害を防ぐことを目標としている。



人文科学研究所

所長 阪上 孝

教授

人文学研究部 ● 井狩彌介
宇佐美齊
阪上 孝
佐々木克
富永茂樹
前川和也
水野直樹
山室信一
山本有造
横山俊夫

東方学研究部 ● 井波陵一
岩井茂樹
金 文京
桑山正進
小南一郎
曾布川寛
高田時雄
武田時昌
田中 淡
富谷 至
麥谷邦夫
森 時彦

客員 ● 濱田正美
(神戸大学文学部 教授)

Henaff, Marcel
(2000.10~2001.6)

Breen, John
(2001.7~2001.12)

楊 天石
(2001.7~2002.1)

張 翔
(2002.1~2002.4)

Van Bremen, Jan
(2002.2~2002.7)

助教授

人文学研究部 ● 大浦康介
籠谷直人
加藤和人
高木博志
高階絵里加
竹沢泰子
田中雅一
藤井正人

東方学研究部 ● 浅原達郎
池田 巧
石川禎浩
稲葉 稜

Wittern, Christian
宇佐美文理
岡村秀典
船山 徹
安岡孝一

客員 ● 中谷文美
(岡山大学文学部 助教授)

助手

人文学研究部 ● 落合弘樹
菊地 暁
北垣 徹
小林博行
小牧幸代
坂本優一郎
多田博美
田中祐理子
堂山英次郎
森本淳生

東方学研究部 ● 大原嘉豊
木島史雄
古勝隆一
東郷俊宏
中西裕樹
藤井律之
古松崇志
真下裕之
宮 紀子
村上 衛
守岡知彦
森賀一恵

漢字情報研究センター

センター長 阪上 孝

センター主任 高田時雄

教授

井波陵一
武田時昌

助教授

Wittern, Christian
安岡孝一

助手

梶浦 晋
守岡知彦
森賀一恵

研究・教育経費

歳出決算等

(単位円)

	平成11年度	平成12年度
人件費	654,345,549	655,637,319
物件費	212,091,951	373,288,521
出版費	6,552,521	8,177,690
図書費	23,741,251	23,443,168
その他	181,798,179	341,667,663
総決算額	1,078,529,451	1,402,214,361

科学研究費補助金採択状況

(単位千円)

種目	1999年度		2000年度	
	件数	金額	件数	金額
特定領域研究A1			1	2,200
特定領域研究A2	2	2,500	3	6,000
基盤研究A1	2	17,800	1	13,200
基盤研究A2	3	20,600	1	4,600
基盤研究B1			1	5,300
基盤研究B2	7	24,000	8	26,200
基盤研究C1				
基盤研究C2	7	11,400	9	11,400
萌芽的研究	3	2,600	1	700
奨励研究A	8	9,400	10	9,500
	32件	88,300	35件	79,100

科学研究費補助金研究題目・代表者

●平成11年度

(単位千円)

課題名	種目	研究代表者	金額
本邦に残存する朝鮮渡来典籍の調査・研究と保存的利用法の開発	基盤研究A1	勝村哲也	7,700
前近代久米島文化の復元—未公開の家文書群の学際的実地検証をふまえた解説による—	基盤研究A1	横山俊夫	10,100
長江流域における城郭都市形成過程の考古学的調査	基盤研究A2	岡村秀典	11,700
新漢字コード系の研究	基盤研究A2	勝村哲也	4,200
六朝隋唐期社会における宗教文化の役割に関する歴史的研究	基盤研究A2	吉川忠夫	4,700
権力と権威—古代インドにおける王権と宗教伝承の諸相—	基盤研究B2	井狩彌介	1,900
個をめぐるミクロ人類学確立に向けての基礎研究：対象・研究者・パラダイムの連関的考察	基盤研究B2	田中雅一	1,700
石窟寺院の成立と変容	基盤研究B2	桑山正進	2,800
中国における通俗文学の発展及びその影響	基盤研究B2	小南一郎	3,600
明治維新期薩摩藩の政治動向をめぐる総合的研究	基盤研究B2	佐々木克	5,500
1920-30年代のヨーロッパ社会と前衛芸術	基盤研究B2	宇佐美齊	6,800
ヴェーダ・ヴァードウーラ学派文献の総合研究	基盤研究B2	井狩彌介	1,700
「聖地」大和の形成—近代天皇制と文化—	基盤研究C2	高木博志	1,400
20世紀前半における「危機」と「脱=近代」をめぐる語言説に関する総合的研究	基盤研究C2	上野成利	1,900
“市民”概念の再検討—1789年人権宣言成立過程の研究	基盤研究C2	富永茂樹	2,600
社会的構築物としての人種概念に関する理論的考察	基盤研究C2	竹沢泰子	1,700
16・17世紀中国北部辺境における多元社会の形成と発展	基盤研究C2	岩井茂樹	1,100
3世紀から7世紀に至る書写材料の変遷とその制度・学術上への影響	基盤研究C2	富谷 至	800
貴族共和制期ポーランドにおける国制改革論の系譜	基盤研究C2	小山 哲	1,900
日本と南アジアの通商網に関する実証的研究	特定領域研究A2	籠谷直人	1,100
元明代の散曲研究	特定領域研究A2	金 文京	1,400

基地内活字メディアの分析を中心とする在日米軍社会の文化人類学的研究	萌芽的研究	田中雅一	500
中国朝鮮日本における孝子説話の総合的研究	萌芽的研究	金 文京	700
衛星画像を利用した中国宗教地理学構築の試み	萌芽的研究	麥谷邦夫	1,400
近代日本における「方言」研究史をめぐる言説分析	奨励研究(A)	安田敏朗	700
魏晉南北朝期における注釈学の歴史的展開に関する研究	奨励研究(A)	古勝隆一	1,100
北インド・ムスリム社会における諸集団の序列化と「系譜」創出の関係をめぐる研究	奨励研究(A)	小牧幸代	1,600
征韓論の展開と佐賀の乱	奨励研究(A)	落合弘樹	1,100
清代の土地所有、徴税、徴税、国家	奨励研究(A)	高嶋 航	800
イスラム時代インドにおける歴史史料の文献学的研究(制度史料を中心)	奨励研究(A)	真下裕之	1,100
ポール・ヴァレリーの「カイエ」における心理学及び哲学と同時代思潮に関する研究	奨励研究(A)	森本淳生	1,500
川西走廊諸言語における声調発展の類型地理論	奨励研究(A)	池田 巧	1,500

●平成12年度

(単位千円)

課題名	種目	研究代表者	金額
東・東南アジアの消滅の危機に瀕した言語の研究	特定領域研究A1	池田 巧	2,200
元明代の散曲研究	特定領域研究A2	金 文京	1,400
日本と南アジアとの通商網に関する史的実証研究	特定領域研究A2	籠谷直人	1,100
西南中国からヒマラヤ地域のチベット系少数民族の記述研究	特定領域研究A2	池田 巧	3,500
前近代久米島文化の復元—未公開の家文書群の学際的実地検証をふまえた解説による	基盤研究A1	横山俊夫	13,200
六朝隋唐社会における宗教文化の役割に関する歴史的研究	基盤研究A2	麥谷邦夫	4,600
中国近代社会の変容についての数量データと基礎的資料の収集と分析	基盤研究B1	森 時彦	5,300
個をめぐるミクロ人類学確立に向けての基礎研究：対象・研究者・パラダイムの連関的考察	基盤研究B2	田中雅一	1,900
石窟寺院の成立と変容	基盤研究B2	桑山正進	2,500

中国における通俗文学の発展及びその影響	基盤研究B2	小南一郎	3,300	全国漢籍データベースの実現にむけて	基盤研究C2	高田時雄	2,000
明治維新期薩摩藩の政治動向をめぐ る総合的研究	基盤研究B2	佐々木克	3,800	衛星画像を利用した中国宗教地理学構築の 試み	萌芽的研究	麥谷邦夫	700
1920-30年代のヨーロッパ社会と前衛芸術	基盤研究B2	宇佐美齊	4,600	北インド・ムスリム社会における諸集団の 序列化と「系譜」創出の関係をめぐる研究	奨励研究A	萬宮幸代	900
ヴェーダ・ヴァーダウラ学派文献の総合研究	基盤研究B2	井狩彌介	1,500	征韓論の展開と佐賀の乱	奨励研究A	落合弘樹	800
中国学に関する南欧所見資料の研究	基盤研究B2	高田時雄	3,700	清代の土地所有、徴税、国家	奨励研究A	高嶋 航	900
「進化論」受容の社会的・文化的文脈に かんする学際的・比較研究	基盤研究B2	阪上 孝	4,900	イスラム時代インドにおける歴史史料の 文献学的研究（制度史史料を中心に）	奨励研究A	真下裕之	1,000
20世紀前半における「危機」と「脱＝近代」を めぐる諸言説に関する総合的研究	基盤研究C2	上野成利	1,800	ポール・ヴァレリーの「カイエ」における 心理学及び哲学と同時代思潮に関する研究	奨励研究A	森本淳生	700
<市民>概念の再検討—1789年 人権宣言成立過程の研究	基盤研究C2	富永茂樹	1,100	川西走郎諸言語における声調発展の 類型地理論	奨励研究A	池田 巧	900
社会的構築物としての人種概念に関する 理論的考察	基盤研究C2	竹沢泰子	1,200	明治期日本におけるドイツ法学継受の 文化交渉史的研究	奨励研究A	瀧井一博	1,200
16・17世紀中国北部辺境における多元社会の 形成と発展	基盤研究C2	岩井茂樹	600	中国医学史における疾病観変遷に関する 基礎的研究	奨励研究A	東郷俊宏	1,000
3世紀から7世紀に至る書写材料の変遷と その制度・学術上への影響	基盤研究C2	富谷 至	1,100	日本語教育政策と言語理論 —一時枝誠記の言語過程説を中心に—	奨励研究A	安田敏朗	1,100
貴族共和制期ポーランドにおける国制改革論 の系譜	基盤研究C2	小山 哲	1,100	5・6世紀中国における仏教戒律思想史の 多角的研究	奨励研究A	船山 徹	1,000
中国沿岸における龍山時代の地域間交流	基盤研究C2	岡村秀典	1,800				
国民帝国としての近代日本国家の統治システム の展開とその法政理論に関する総合的分析	基盤研究C2	山室信一	700				

各種助成金 (単位円)

■ 委任経理金

●平成11年度

近代中国の国民国家形成と日本の法政思想・制度—思想連鎖の視点から—	山室信一	500,000	(財) 日中友好会館
イスタンブール考古学博物館蔵シュメール農業経営文書の研究とその刊行	前川和也	500,000	(財) 三島海雲記念財団
多文化・多言語社会「日本」の歴史的研究	安田敏朗	400,000	(財) 旭硝子財団
軍隊における聖職者の役割：在日米軍における従軍牧師の研究を中心に	田中雅一	550,000	(財) 庭野平和財団
20世紀前半の日本「国民帝国」論とアジアをめぐる知の集積・還流に関する基礎的研究	山本有造	930,000	(財) 三菱財団
16—17世紀アジアにおける言語接触とキリスト教布教の言語戦略	高田時雄	1,000,000	(財) 松下国際財団

●平成12年度

20世紀前半の日本「国民帝国」論とアジアをめぐる知の集積・還流に関する基礎的研究	山本有造	1,570,000	(財) 三菱財団
--	------	-----------	----------

■ その他

●平成11年度

出版助成金	『流沙出土の文字資料』	富谷 至	5,500,000	京都大学学術出版会
研究成果公開促進費（データベース）	西域行記データベース	高田時雄	2,030,000	日本学術振興会
研究成果公開促進費（学術図書）	『西域行記索引叢刊3』	高田時雄	4,500,000	日本学術振興会

●平成12年度

研究成果公開促進費（学術図書）	『中国近代綿業史の研究』	森 時彦	2,100,000	日本学術振興会
-----------------	--------------	------	-----------	---------

人文科学研究の フロンティア

京都大学人文科学研究所要覧 2001年

2002年3月20日 印刷

2002年3月31日 発行

非売品

編集・発行◆京都大学人文科学研究所
〒606-8501 京都市左京区吉田牛ノ宮町
Phone 075-753-6902

編集協力◆木村 滋
デザイン、DTP◆柴永事務所
印刷◆凸版印刷株式会社

©京都大学人文科学研究所 2002
*無断転載を禁じます